経典餘師

孟子四

三井蔵版

九

口11
1029
9

門口
號 1029
卷 9

孟子

朱熹集註

告子章句上

告子曰性猶杞柳也義猶桮棬也以人性爲仁義猶以杞柳爲桮棬

天地陰陽の二気をうけて形を為のちだめなり今告子の説よ人の性ハたとへバ杞柳の如くにそのうふも成といふべと其のもとふハ用がこゝに人も戯悪のなくひとそこゝにそのまゝよハ善道よおりむをがくゝ立大をを服て後尽てくさんとハ杞柳を以て桮棬を為がごくくなうと説さらまいハ人の性を悪とうへのこゝろなり

孟子曰子能順杞柳之性而以爲桮棬

孟子の曰子能杞柳の之性ふ順がつて以くく桮棬よ為乎将ふ杞柳を戕賊

乎。將戕賊杞柳而後以爲桮棬也。如將戕賊杞柳而以爲桮棬。則亦將戕賊人以爲仁義與。率天下之人而禍仁義者。必子之言夫。

孟子聞召。而告子を責て仰せのごとくハ元人の善悪なきハ性の自然なるを以て人の巧を以て仁義を爲ハ杞柳の自然にハあらず人の巧を加ひて仁義を禍ひすることハ必ず子の言のごとくなるべし。然ハ天下の人なまじいに仁義を禍害するのおしへとなるといふ天下の人なまじいに仁義を賊ふてこそ仁義ハなけれ。

○告子曰。性猶湍水也。決諸東方則東流。決諸西方則西流。人性之無分於善不善也。猶水之無分於東西也。

告子又教て曰。

人の性ハ恰も湍水のごとく善をも悪をもたとへバ東へ決をバ東へ西へ決をバ西へなすがごとく人の性ハ善悪ともなすべきなり。

不善也。猶水之無分於東西也。

孟子曰。水信無分於上下乎。人性之善也。猶水之就下也。人無有不善。水無有不下。

孟子これを非して誠に水ハ東西の分なし。上下の別あるべきなり。水元より上へなぐるごとき水の下へ行ハ山ゐ在使可是豈水之性を以ん哉。其勢ひ則ち然。

自然の理なり人も自然の性といふハ善の外なし。

今夫水搏而躍之。可使過顙。激而行之。可使在山。是豈水之性哉。其勢則然也。人之可使爲不善。其

人之不善を爲使可其性亦是の猶一

告子曰く生之を性と謂

孟子の曰く生之を性と謂ハ白之を白と謂が猶與曰く然り羽之白きを白一とさとろ〻雪之白きを白とさとろ〻ハ王之白きを白とさとろ〻猶き與曰く然ら

然らバ則ち犬之性ハ牛之性の猶く牛之性ハ人之性の猶き與

告子曰食色ハ性也仁ハ内也外ふ非ず義ハ外也内ふ非ず

性亦猶是也

たとへバ水を搏躍さとバ人の顙と過べく山へもなるのごとくひべ一題ハ水の性よハあしむべき者ふ極まりどく悪事とも為もむべきとその理のごとく

○告子曰生之謂性

告子又言をこゝへて曰やく性とらふハ只生るゝところを見心ろ知そまゝを性とハいふ元數のことにあづ

孟子曰生之謂性也猶白羽之白也猶白雪之白與曰然

孟子これを見りふ然バ生てあるうりの八手足をそさらくのごとく目ゝ耳ゝ鼻ゝ口ゝ心ゝ凡ての性白一りのハ聞四体運動を以て凡ての性白一りのハあづく白と謂べき告子對て曰やく然ろ孟子又仰せらく八鳥の羽の白と雪の白と玉の白とをべて白とこなるまバ白とらふの名ハ異なるまやく對て曰然なり

然則犬之性猶牛之性牛之性猶人之性與

孟子さてそれ犬も牛も人も性ハおるべきとらふハ果して然ろ告子對て曰やく然ろ

○告子曰食色性也仁内也非外也義外也

べきやそも生ゝとらふハ天ろう得ろる所の気なる性ハ仁義礼知なりこの全きところの理ハ人ろう外ゝ備る事あるまこと

そ生ゝとらふりの性のなきこるあるまやく然ごもまべてやゝこ生て在りのゝ

孟子曰何以謂仁內義外也曰彼長而
我長之非有長於我也猶彼白而我白
之從其白於外也故謂之外也（孟子又問仁義何以）

孟子曰何以謂仁內義外也曰彼長而我長之非有長於我也猶彼白而我白之從其白於外也故謂之外也

（孟子又問仁義何以）

曰（告子）猶（其）白（也）（くいふや告子對て）
（ひて年長なりと仰）
（ぐなとくバ彼）（年長の人あま）（バそれとそや）
（向方へつかて名づけ施）（すもの）
（道なり依て義ハ外）（といふ）

曰猶其白也（くいふや告子對ひて年長なりと仰ぐなとくバ彼年長の人あまバそれとそや向方へつかて名づけ施すもの道なり依て義ハ外といふ）

曰白馬之白也無以異於白人之白也不識長馬之長也無
以異於長人之長與且謂長者義乎長
之者義乎（孟子又問ひて告子色をかなう）
（ふるゑさなう）（そのゑ）
（人の敬と異なりゑや）（いん然バその長ゑる者義とハらゑ）

曰白馬之白也無以異於白人之白也不識長馬之長也無以異於長人之長與且謂長者義乎長之者義乎（孟子又問ひて告子色をかなうそのゑ人の敬と異なりゑやいん然バその長ゑる者義とハらゑ）

（孟子又問ひて告子色をかなうそのゑ人の敬と異なりゑやいん然バその長ゑる者義とハらゑ）

曰（告子）吾（弟ハ則ハち之）
（を愛ゑ秦人之弟ハ）
（則ハち愛せ不是我）
（を以て悦こびを爲）
（者也故少ハ之を内）
（と謂楚人之長ハ）
（長ハ亦吾長を長）
（とゑ是長を以て悦）
（こびを爲者也故が）
（ゆへ之を外と謂）

曰吾弟則愛之秦人之弟則不愛也是以我爲悦者也故謂之内長楚人之長亦長吾之長是以長爲悦者也故謂之外也（告子ハそこ説て曰吾弟ハ心よの愛ハ）
（ぐる他人の弟ハ愛ゑるのゑろな）
（仁愛ゑるゑの主内よあり他人ゑそゑる位）
（ゑうゑバ之を長敬なうゑ吾悪ゑる敬長なうゑこれ敬）
（ころ向方よ在敬義をなんその主ある外）
（在なりぞや秦といひ楚とらゑも他國とらゑゑバ）

曰吾弟則愛之秦人之弟則不愛也是以我爲悦者也故謂之内長楚人之長亦長吾之長是以長爲悦者也故謂之外也（告子ハそこ説て曰吾弟ハ心よの愛ハ他人の弟ハ愛ゑるのゑろな仁愛ゑるゑの主内よあり他人ゑそゑる位ゑうゑバ之を長敬なうゑ吾悪ゑる敬長なうゑこれ敬ころ向方よ在敬義をなんその主ある外在なりぞや秦といひ楚とらゑも他國とらゑゑバ）

曰（告子）者（義乎）
（曰吾弟ハ則ハち之）
（を愛ゑ秦人之弟ハ）
（則ハち愛せ不是我）
（を以て悦こびを爲）
（者也故少ハ之を内）
（と謂楚人之長ハ）
（長ハ亦吾長を長）
（とゑ是長を以て悦）
（こびを爲者也故が）
（ゆへ之を外と謂）
（曰く秦人之炙を嗜）
（む以て吾炙を咬ふ）
（ふ異ゑることゑ無夫）
（物則ハち亦然ると）
（と有者也然ちバ）
（則ハち炙を嗜む）

曰者義乎曰吾弟則愛之秦人之弟則不愛也是以我爲悦者也故謂之内長楚人之長亦長吾之長是以長爲悦者也故謂之外也曰嗜秦人之炙無以異於嗜吾炙夫物則亦有然者也然則嗜炙亦有外與

亦外有乎

孟季子公都子小問曰何を以てか義ハ内と謂ふ曰く吾敬を行ふ故ゆゑに之を内と謂ふ鄉人伯兄を長とする一歳ならバ則ち誰をか敬せん曰く兄を敬せん酌バ則ち誰をか先にせん曰く先に酌ん鄉人に酌ん敬する所此に在長とする所彼に在り是れ外ハ

公都子答ること能ハ不以く孟子ニ告ぐ孟子曰く叔父を敬せん乎弟を敬せん乎彼將曰ん叔父を敬せん曰く弟尸ニ爲バ則ち誰を敬せん彼將曰ん弟を敬せん子曰悪んぞ其叔父を敬するを在ん彼將曰く位ゆゑに在故也子亦曰位ゆゑに在故庸の敬ハ

在内ゆゑに由ゆゑに非ざるなり

○孟季子問公都子曰何以謂義内也敬さるところ内なるゆゑなり孟季子ハ孟子の御姪子なり曰行吾敬故謂之内也敬さるところ内なるゆゑなり孟季子の問ふ公都子答ること能ハず孟子ニ告ぐ孟子曰く叔父を敬せん乎弟を敬せん乎彼將曰ん叔父を敬せん曰く弟尸ニ爲バ則ち誰をか敬せん彼將曰ん弟を敬せん子曰悪んぞ其叔父を敬するを在ん彼將曰く位ゆゑに在故也子亦曰位ゆゑに在故庸の敬ハ

兄一歳則誰敬曰敬兄酌則誰先曰先酌鄉人所敬在此所長在彼果在外非由内也

兄一歳ならバ則ち誰をか敬せん曰く兄を敬せん酌バ則ち誰をか先にせん曰く先に酌ん鄉人長ずる所此に在長ずる所彼に在り是れ外ゆゑに非ざるなり

孟季子ハ孟子の御姪子なり公都子ハ孟子の門人なり孟季子の問ふ公都子答ること能ハざるゆゑに孟子ニ告ぐ孟子曰く叔父を敬せん乎弟を敬せん乎彼將曰ん叔父を敬せん曰く弟尸ニ爲バ則ち誰をか敬せん彼將曰ん弟を敬せん子曰悪んぞ其叔父を敬するを在ん彼將曰く位ゆゑに在故也子亦曰位ゆゑに在故庸の敬ハ

兄亦在斯須之敬
鄉人亦在

李子之を聞て曰
叔父を敬まるハ則ち敬を弟を敬まれバ則ち敬を異しそ外亦在内亦由亦非ざる都子曰く
冬日ハ則ち湯炊を飲夏日ハ則ち水を飲然らハ則ち飲食も亦外亦在んや

敬叔父則敬弟則敬果在外非由内也公都子曰冬日則飲湯夏日則飲水然則飲食亦在外也季子聞之曰敬叔父則敬弟則敬果在外非由内也公都子曰冬日則飲湯夏日則飲水然則飲食亦在外也

敬恭ハ伯兄に斯須の敬ハ鄉人に亦在り時に當て敬ハ庸亦備ハる
てそ一ツをなすべしそや中より出るハ義ハ内なるぞや尸とハ神を祭る人を清てそれと
なるぞや位の目あてとなるそうにそのそう
季子聞
常に敬まべきゆへよ敬ハ禮を施すとこなの也ハ果して外ろうぞや公都子りやう
意得ず上なる也ハ即ち曰くそれ冬かる也ハ人湯をこのく夏冬
こづをこのむなるぞ和をそる也ハ飲食を好を愛するなり外ハ
在とうぞ○義ハ外之の説近来告子ハ左袒する者あり
一向天朝の事を語べし但一初学の徒議論に長ずる

公都子曰く告子曰く性ハ善無不善無
○或ひと曰く性ハ以て善を爲可以て不善を爲可是故ニ文武興ハ則ち民善を好ミ幽厲興ハ則ち民暴ぬを好
○或ひと曰く性ハ善有不善有是故ニ堯を以て君と爲而ふしそて象有ハ瞽瞍を以て父と爲而ふしそて舜有ハ
を以て兄之子

ことハ聖人の急務にあらざる深く攻るにハ

○公都子曰告子曰性無善無不善也
或曰性可以爲善可以爲不善是故文武興則民好善幽厲興則民好暴或曰有性善有性不善是故以堯爲君而有象以瞽瞍爲父而有舜以紂爲兄之子且以爲君而有微子啓王子比干

公都子の問なう性を論とうこと或人のくるハ人の性ハ善も不善もなさりのとて丈王武王の御代ハ天下の民こゝ徳行の善をとうび幽王厲王の無道なるとて爲さりしかバ

民ぐの風暴く天下ぐ乱ようとぐ或人のいふハ性ハぐ
めよう善もぐと不善もぐと定まりあり因て聖君堯帝の
臣に象の如き悪臣あり瞽叟の如く狂道なる人のすに舜帝
生ぜり紂王の如き人の下に忠臣微子比干あり紂王の為に
兄子なり此例を
ぐらべぐとなり 今曰性善然則彼皆非與

今先生ハ性善なりときハ右の説ハぐる非ざるべぐ 孟子曰乃若其情則
なるべぐ性正ぐさかりまの罪ぐハあらべぐぐ 可以為善矣乃所謂善也若夫為不善
出るを情という元より不善なるぐころ 非才之罪也

孟子御答それ性ハ善なり性の動のぐ 惻隠之心人皆有
べぐ拠ハ人の能ぐそ智を動ぐ用ゆる所なり性善なる
ど利欲物欲ぐ欲ぐ蔽ぐれる処より也ハぐ不善 之羞惡之心人皆
ぐ

惻隠之心人皆有之羞惡之心人皆有之恭敬之心人皆有之是非之心人皆有之惻隠之心仁也羞惡之心義也恭敬之心禮也是非之心智也仁義礼智ハ人人ぐ備ありぐその心の
ぐ義礼智ハ人人ぐ備ありぐその心の
ぐ義礼智ハ人人ぐ備ありぐその心の
ぐ

此詩者其知道乎故有物
道を知る乎故ゆえに物有ハ必らず則
有民之夷を秉故
ゆえに是懿徳を好
を

孟子曰富歳子弟多賴凶歳子弟暴多
ハ子弟暴多一天
之才降とし爾殊なる非其其心
を陷溺する所以の

徳孔子曰為此詩者其知道乎故有物
必有則民之秉夷也故好是懿徳詩経の辞を
天ようの蒸くの民今と世
物よ就て則ある
ともなう父子ハ孝と慈の則あり耳目ハ聡と明めの
是懿徳の心ある人自然にそなる性なり聖人詩の
人の性ハ天理なり理ハ聖人も常人も一なり
おとらハ気なり気ハ清と濁とあるのみ

○孟子曰富歳子弟多賴凶歳子弟多
暴非天之降才爾殊也其所以陷溺其
心者然也富歳つで凶困窮なる時ハいとのなる者の
義理を忘よの心ある少子とるの

弟ともる者も孝弟の
ハ困窮にようて心を
なる事どもなり再
てハなり

者然リ

今夫麰麥播種而耰之其地
今夫麰麥を播
之を耰其地同
く樹之時又同
ト浮然として生
日至之時ハ至
皆熟す同
不こと有と雖
則地小肥磽有
両露之養あい人
事之齊ハ不也

浮然として生ずべし今夫麰麥播種而耰之其地
然として
同樹之時又同浮然而生至於日至之
時皆熟矣雖有不同則地有肥磽雨露
之養人事之不齊也たとへバ麰麥を播て種を耰てその土
地ハ同時に浮然そ
その内ハ實のなるとハ多と少との不同あるなり
ハ土地の肥と磽とも雨つの養と農業を
勤ると怠るの類ってそ
者ハ舉相
似ハより何ぞ獨り尔

故ゆえに凡そ類を同ふする者ハ舉相似也何獨至於人而疑之聖
故凡同
類者舉相似也何獨至於人而疑之聖

人與我同類者　故龍子曰不知
相似也　なんぞ人間の其の理異ろうと
いうことのんや　況聖人も人と異ならんや　故
足而爲屨我知其不爲蕢也屨之相似
天下之足同也
口之於味有同耆也易牙先得我口之
所耆也如使口之於味也其性與人
殊若犬馬之與我不同類也則天下何
耆皆從易牙之於味也至於味天下期

於易牙是天下之口相似也　口の味を嗜むことも同じ理ろう
昔者の易牙ハ口の能を得るのみなること人と犬とおどに異なるべし　何ぞ易牙が嗜といふものと
嗜従ろんや　蓁とふハくれ天下の人も口中ハ同じきりの故なり
天下期於師曠是天下之耳相似也惟
目亦然至於子都天下莫不知其姣也
不知子都之姣者無目者也　耳も同じ理ろう往昔
の師曠がごく五音清濁を弁ふるも耳の能を得るのみにて元天下の耳師曠に異なるべきも目こそも異なる
之於味也有同耆焉耳之於聲也有同
天下何ぞ嗜むこと皆易牙之味ふひふかふを
従がう味ふひふかふに至てハ天下易牙を期是天下之口相似也
惟耳も亦然り聲ふ至つてハ天下師曠を期是天下之耳相似れバ也　惟目も亦然り子都ふ至つてハ天下其姣こと知不こと莫子都之姣
我知不者ハ目無者也
故ゆふ曰口之味ふひふかふに於ふ同ふく嗜むこと有耆を
ふ於ふ同ふく者むこと有耳之聲ふ於ふ

聽焉耳目之於色也有同美焉至於心獨無所同然乎心之所同然者何也謂理也義也聖人先得我心之所同然耳故理義之悅我心猶芻豢之悅我口 右承上文

○孟子曰牛山之木嘗美矣以其郊於大國也斧斤伐之可以爲美乎是其日夜之所息雨露之所潤非無萌蘖之生焉牛羊又從而牧之是以若彼濯濯也人見其濯濯也以爲未嘗有材焉此豈山之性也哉雖存乎人者豈無仁義之心哉其所以放其良心者亦猶斧斤之於木也旦旦而伐之可以爲美乎其日夜之所息雨露之所潤非無萌蘖之生焉牛羊又從而牧之是以若彼濯濯也人見其濯濯也以爲未嘗有材焉此豈山之性也哉雖存乎人者豈無仁義之心哉其所以放其良心者亦猶斧斤之於木也旦旦而伐之可以爲美乎其日夜之所息雨露之所潤非無萌蘖之生焉牛羊又從而牧之是以若彼濯濯也人見其濯濯也以爲未嘗有材焉此豈山之性也哉

同ジク聽キク有目之色ヲ於ケ同ジク美ト
まことに有心ふ至つ
く獨リ同ジク然ル所
無らん乎心之同ジク
然ル所の者ハ何ぞ理と
義ぞ統言也聖人先
我心之同ジク然ル所
を得ル耳故ニ理
義之我心を悅こぶと
芻豢之我口を悅こ
ばしむるが猶一
孟子の曰牛山之木嘗
て美ハ一其大國の郊
なるを以ク也斧斤之
を伐ル以ク美ハ一と爲
可ケん乎是其日夜之
息ふ所雨露之潤
ふ所萌蘖之生
ず牛羊又
從ツ而
これを牧ス
是ヲ以て彼ガ若ク
濯濯タル人其濯
濯タルを見以ク
未ダ嘗テ材有ル
爲ニ此豈山之性ニ
らん哉

人ふ存ル者と雖
とも豈仁義之心
無らん哉其良心を
放つ所以の者亦斧
斤之木ふ於ケる猶

斧斤之於木也且旦而伐之可以爲美
乎其日夜之所息平旦之氣其好惡與
人相近也者幾希則其旦晝之所爲有
梏亡之反覆則其夜氣不足以
存夜氣不足以存則其違禽獸不遠矣
人見其禽獸也而以爲未嘗有才焉者
是豈人之情也哉良心と善心なり良ハ善と同
意にて本心のことろう人ハ人欲煩脳
の爲に仁義の良心を放ふ斧斤の爲に林木を
梏亡がごとく人も夜ハ寢て平旦にいたる迄ハ物と接ることなく
ゆえに氣清て心潔りのなうまことに心を置ところ正しうして
人欲煩脳ふるゝことなく誠に旦旦ふその美しきを伐

るがごとくなるをのハ幾希なうぬ晝夜の間火一氣を養て良心にさそうへ
らんとすれバ物欲煩脳のために梏亡さるゝ反覆さるゝて夜氣の存養もうるハで禽獸の心となるなり人
場よの不遠ざんと見て人間も拔德のなりのうるゝと以爲ハさるれ豈人の情実ならん哉故苟
無物不長苟失其養無物不消孔子曰
操則存舍則亡出入無時莫知其鄉惟
心之謂與
○孟子曰操則存舍則亡出入時無
其鄉其惟心之謂與
故ゆえ苟とふ其養をふを得ハ物長セ不
ス無苟とふ其養ひを失なへハ物消セ不ること無
○孔子曰操則存舍ハ則ち亡ざ出入時無
其鄉ハ知ること莫ハ惟心之謂與
有来者と是豈人之情ならん哉

孟子の曰王之不智を或ふこと無れ

天下生ド易き物有と雖ども一日之を暴さめ十日之を寒さば未ざ能生ぜる者有未吾見ること亦罕なり吾退ぞひて之を寒さ者至る吾焉ぞ萌ざすこと有を如何ぜん哉

今夫弈之數爲小數也心を專にし志を致さざれば則ち得不弈秋

八通國之弈を善する者也弈秋を使て人に弈を誨ゆるに其一人八心を一にし志を致さざれば則ち得不弈秋雖ども一心に以爲鴻鵠有て將に至らんと將弓繳くを援て之を射ん思之與倶に學ぶと雖ども之に若弗是其智若弗が爲與曰然ふ非ず

孟子曰魚ハ我欲ところ所熊掌も亦我

○孟子曰無或乎王之不智也孟子嘗て齊王に教誨ふること數なる一ど只その言ところを善として用ることを或むとなく一その子細にそあうと雖有天下易生之物也一日暴之十日寒之未有能生者也吾見亦罕矣吾退而寒之者至矣吾如有萌焉何哉たとへバ生易き植物ありとも一日これを暴めて十日これを寒ときハ必ず枯となり吾王よ萌を出さんと欲とも能ハざるごとく今夫弈之爲數小數也不專心致志則不得也弈秋通國之善弈者也使弈秋誨二人弈其一人專心致志惟弈秋之爲聽一人雖聽之一心以爲有鴻鵠將至思援弓繳而射之雖與之俱學弗若之矣爲是其智弗若與曰非然也

弈ハ棋を圍ことなり小藝なるも」ことゝ。專ハらに志ーを致ざーてハ得ざる弈秋とゝへる者あり國くに通る善弈なり弈秋二人の弟子を誨ふるに一人心を一にし攻て聽ざるときハ弈秋が誨ふるを聽ども一人ハ鴻鵠の至るを以て心に思ひ弓を援矢を繳て射ようとするなり故に二人ハ魚鳥の獵と好ふ同ども一人ハ及ざる是智の

學ぶと雖ども一人ハ及ざる若ざるハあるごとを

○孟子曰魚我所欲也熊掌亦我所欲

也二者不可得兼舍魚而取熊掌者也
生亦我所欲也義亦我所欲也二者不
可得兼舍生而取義者也　魚肉をも
嗜熊の掌とも
嗜べし　こゝにり二ツなり〳〵ハ得〳〵さる死ハ魚を舍て
熊の掌をとるべし味ハひの勝るを欲ふ〳〵ゆへ〳〵ろう　今日
命を生うるも人の欲ところなり義理を重ざるも人の
欲ところなり若義を行なふ〳〵ときハ死をいとふべくまた
義理を舍バ生といふ〳〵り得〳〵さる死ハ
生を舍て義をとるべきなり〇匹夫一言のまた〳〵ても
さを以て生を舍るも傍の人よ對して恥を忍びざく
ふよてなりうくれ義の偏より発もなりうまた〳〵君子ハ身を
砕とらへる節義を守て死を恐ざ名を重とさるゆ〳〵
今日人として義と
殊ニ　天朝ハ勇義正直の道
古来自然の常ろ深ゝ
生亦我所欲
所惡有甚於死者故不爲苟得也死亦我
欲有甚於生者故患有所不
辟也　君子といへる生の
生ことの得らるもそ〳〵
生ことの得らるもそ〳〵
ようも悪ろ〳〵ことあり
その死ようも甚て悪とハ
不義毎道の名目なろう
如使人之所欲莫甚於
生則凡可以得生者何不用也使人之
所惡莫甚於死者則凡可以辟患者何
不爲也　なし〳〵ハ所悪ところの死ようハ
甚

生を亦我欲する所生ろ
も甚そ〳〵き者有
故ゆへ尓為も得を
為不ざ死を亦我悪所悪ところも甚しさ
者有故ゆへ尓患を
辟不所有也
如人の欲する所
生ろ甚そ〳〵きをし
莫〳〵めざ則ち凡
以さく生を得可者ハ
何そ用こ不也人
之悪む所死ろ
甚そ〳〵き者莫〳〵
めざ則ち凡そ以さく

ものならんやこゝをもて賢ならんやへ生をも眩こゝと得さる悪を辟んとするなるべし何の為ぞ

禽獣の為ならん **由是則生而有不用也由是則可以辟患而有不為也** 是理ゆ由てこゝを生ても用ゐさるこゝに悪を辟ても為さゝる有也

是故所欲有甚於生者所悪有甚於死者非獨賢者有是心也人皆有之賢者能勿喪耳 是故所欲有甚於生者所悪有甚於死者非獨賢者有是心有の非ず也人皆之有賢者能喪ふことなく勿耳

一簞の食一豆の羹ものを得ハ則ち生一簞食一豆羹得之則生弗得則死嘑爾而與之乞人不屑也 一簞の食一豆の羹ものを得ハ則ち生弗得ハ則ち死嘑爾しくして之を與ふ乞人を屑ふことなし

萬鍾ハ則ち礼儀を辨ずして之を受萬鍾於我何加焉為宮室之美妻妾之奉所窮乏者得我與 萬鍾ハ則ち礼儀を辨ずして之を受萬鍾我ゟ於何ぞ加へん宮室之美妻妾之奉識所窮乏之者我ゟ得ん為與

嘑爾而與之行道之人弗受蹴爾而與之乞人不屑也 嘑爾しくして之を與ふハ道ゆ行之人受弗ん蹴爾しくして之を與ふハ乞人を屑ふことなし

萬鍾ハ則ち礼儀を辨ずして之を受萬鍾於我何加焉為宮室之美妻妾之奉所窮乏者得我與 萬鍾ハ則ち礼儀を辨ずして之を受萬鍾我ゟ於何ぞ加へん宮室之美妻妾之奉識所窮乏之者我ゟ得ん為與

人弗受蹴爾而與之乞人不屑也 小人ハ義を知ざることなし一簞の食一豆の羹を得ハ則ち生弗得ハ則ち死ん蹴爾しくして之を與ふハ乞人をも屑ふことなし

萬鍾則不辨禮義而受之萬鍾於我何加焉為宮室之美妻妾之奉所識窮乏者得我與 萬鍾ハ則ち禮義を辨ずして之を受萬鍾我ゟ於何ぞ加へん宮室之美妻妾之奉識所窮乏之者我ゟ得ん為與

感ぜざらん為なるべし　鄉爲身死而不受今爲
いづれの類ぞや

宮室之美爲之　鄉爲身死而不受今爲
妻妾之奉爲之　鄉爲身死而不受今爲
所識窮乏者得我而爲之　是亦不可以已乎此之謂失其本心
識ると人生ての始めへ上下もりくだりて
おとり
宮室の安樂妻妾の奢侈所識朋友の恩を受くるとも本心を失ひて名聞等にまどひて礼義をも弁ぜずして万鍾と
の義心あるとバいそ鄉死する場にても嚬頻再ふる食物八受ざるべし今
論ずるに我身忽ち利欲貪
腦のやぐらを因て本心をとらへなり全体恥悪
以ふく已可不手此之を其本心を失ふと謂

孟子の曰仁八人の心也義八人の路也
○其路を舍て由ず其心を放つくして求むる
ハ雞犬有て放てバ則ち之を求むるを知
ハ雞犬有て放てバ則ち之を求むるを知
ふく求むるを知ず學問之道他無其放心
ふく求むる已

○孟子曰仁人心也義人路也舍其路而不由放其心而不知求哀哉
仁八人の德にして本心なり義八人の歩べき路なり
路筋を舍て由ず人道を踏たがへて人有雞犬放則知求之有放心而不知求
迷居とらふハ誠に哀むべし
飼置犬雞猫等ハ放し失ふてもさ八世話とう外
て探求るに大切の本心をとらへ放かくして
求めざるハらうなる道理ぞ
學問之道無他求其放心而已矣
右の如く學問の道八他そもなく本心を求て
慎てその曲縁をたづぬべきのみ
明らかにして義なりと孟子の深を御おしへ

孟子曰今有無名之指屈而不信非疾痛害事也如有能信之者則不遠秦楚之路為指之不若人也

小疾痛害事也如有能信之者則不遠秦楚之路為指之不若人也

孟子の曰く今有無名の指屈んで信ぜず疾痛事を害するに非ず如能之を信ずる者有ば則ち秦楚の路を遠しとせず指之人に若ざるを以てなり

孟子曰今有無名之指屈而不信非疾痛害事也如有能信之者則不遠秦楚之路為指之不若人也

（孟子曰今有無名之指屈而不信非疾痛害事也如有能信之者則不遠秦楚之路為指之不若人也）

不ㇾ知無其善不善
を考ふの所以の者
豈他有ん哉已よ
於一ㇾ之を取已

體ㇾ貴賤有ㇾ小
大有ㇾ小を以て大と
害ㇾ小を以て無賤と
以ㇾ貴ん害ㇾ貴を
ㇾ無其小を養
なき者ハ小人と為其
大を養ふ者ハ大
人と為

今有ㇾ場師有其梧櫝
を舎て其樹棘
養ふ者ハ則ち賤
場師と為
其一指を養なふて

愛ㇾ之ㇾ以て養なふ
處も亦々ㇾ養かふ
ふ所ㇾ以の者
ㇾ他の義
ㇾ太切なる
ㇾ小なる時ハ不善人となる見心の識

體有貴賤有小大無以小害大無以賤害貴養其小者爲小人養其大者爲大人

吾身体を愛養中
人なふて
よ抱ひて貴をとりのこ
ハ小人とふ大な
ㇾ失なふ
ㇾ養なふ

今有場師舍其梧櫝養其樹棘則爲賤場師焉

右の理を場師
草木を養
ふて

養其一指而失其肩背而不知也則爲狼疾人也

又をとへハ指一つを大切
ㇾ養なふ保て其肩背
を失ふハ名付て狼獣の疾ある人といふ狼獣ハむれ
つゐく首の後へよくまるりのなう疾ある人ハ後へうつうつと
能ハざるようてのみ

飲食之人則人賤之矣爲其養小以失大也

飲食の人とハ食物のことに心を
を渡ることを動ㇾ志ㇾ一のなき
をりふ君子ようこと
ㇾ義理の大な
飲食の人ハ元ようハ賤
よろしさ口腹も又軟命のもの
まゞそで人ハ多く小なるりのを養ハ必ず大るりのを忘るりの
悲ざーと道義ㇾ立て養なふ

飲食之人無失也則口腹豈適爲尺寸之膚哉

○公都子問曰鈞是人也或爲大人或

而一て其肩背と
失なふ而して知不
ハ則ち狼疾の人
と為

飲食之人を則ち
人之を賤ㇾむ其小
を養なふて以て大
を失なふが為
飲食之人失ふこと
有ㇾ無ハ則ち
口腹豈適ㇾ尺寸之
膚の為ならん哉

公都子問て曰く
鈞一く是人なう

或ハ大人と為或ハ小人と為ハ何ぞ孟子の曰く其大體ニ從ぐべ大人為其小體ニ從ふハ小人と為曰く鈞一く是ふ或ハ其大體ニ從ぐ或ハ其小體ニ從ふハ何ぞ曰く耳目之官思ハ不ー而ー物ニ蔽ら物ニ交ハ則ハち之を引已心之官ハ則ハち思ふ則ハち之を得思ハ不ハ則ハち得不此天之我ニ與ふる所の者先其大なる者を立ハ則ハち其小なる者奪ふ能ハ不此を大人と為已

孟子の曰く天爵の者有仁義忠信善ニ樂まんて倦不此天爵ニ公卿大夫ハ此人爵なり

古ー之人其天爵を脩めて人爵之ニ從ふ今之人其天爵を脩めて以て

為小人何也孟子曰從其大體為大人從其小體為小人公都子の問なり既て鈴さ人なるに大小に至ること所以いぐさや志ざーを立名を重じて義理ニ心を大体ニ從ぐふ大徳となるなり曰鈞是人あるハいぐさ小体ニ至ろ名ニ從ふゆへニ大徳と小人のもとうち

也或從其大體或從其小體何也曰耳目之官不思而蔽於物物交物則引之而已矣心之官則思思則得之不思則不得也此天之所與我者先立乎其大者則其小者不能奪也此為大人而已矣公都子又曰く鈞さ人なるに大小に至ること所以いぐさや御答それ耳と目の官とて見聞処ニ気をとうバされ心をその為ろ~~蔽ろ物と物とを迷ひ引さまて遂ニあらゆるとあさハぢあろの官ハ思とゆふ一つニある志ざーを立て思バ則ハち其大体を得べさなり元ろ仁義礼智ハ天ろ與ふるのなろ依て其義理の大なる者を尊ふて心ニ志ろと立ろ時ハ利欲心の小なる者ろ~~蔽ろ事あ~ハと此を大徳の人とゆふ而已矣

○孟子曰有天爵者有人爵者仁義忠信樂善不倦此天爵也公卿大夫此人爵也天道ろゆる官爵下おろ人間ニて設こ官爵あり仁義忠信の善道を尊ふて倦なさハ天の官爵なり又公侯列卿大夫なぞいへる品ハ人間の官爵なろ古之人脩其天爵而人爵從之今之人脩其天爵

人爵を要む既よ人爵を得て而して其天爵を棄ば則ち惑之甚しき者なり終よ亦必ず亡びん已

孟子の曰く貴ときを欲る者人之同心也人人已よ貴き者有思弗耳

人之貴とくする所の者良貴よ非ず趙孟之貴とふ所ろ趙孟能之を賤しむ

詩よ云く既よ醉よ酒を以てし既て飽よ德を以てし既て飽よ仁義を言ふ飽よ人之膏粱之味ひを願ハ不所以なり令聞廣譽身よ施さんと人之文繡を願ハ不所以なり

孟子の曰く仁之不仁よ勝水の火よ勝う猶し今之仁を為者ハ一杯之水を以て一車薪之

以要人爵既得人爵而棄其天爵則惑之甚者也終亦必亡而已矣

修行して而して後に人爵ハ自ら其至る天爵を尊ぶ古への人ハ其天爵を尊ぶ

の人ハ天爵の所に脩行をなせども元来人爵を身に要むるなり若人爵を得んと思ハば權をもやむるに隧に又人爵をも亡ふことあり

○孟子曰欲貴者人之同心也人人有貴於己者弗思耳

凡て人の心ハ金銀や官職いづれも我身の尊貴を祈ハざる者なし人人己が身に貴ときを知ざるハなし

人之所貴者非良貴也趙孟能賤之

人の貴ときハ愚よりも智よりも貴ときものなり趙孟ハ愚よりも智よりも貴ときものなり

貴也趙孟之所貴趙孟能賤之

趙孟ハ良の貴貴品ろ者なり晉の大夫よ趙孟とふ人あり己が心よりこそ

詩よ云く既よ醉者小人ハ重ね酒をあくまで悪ろくさ悪ろくさハ怨ろうにとろうあげ一貴とも賤しもろも自由にいさゝかゆくらふのなろう

詩云既醉以酒既飽以德言飽乎仁義也所以不願人之膏粱之味也令聞廣譽施於身所以不願人之文繡也

詩經の辭のべろう酔て樂むよハ酒なろうと飽ハ德なろうと仁義を腹中にあつめてこそ樂そうなるこゝろ人の詭味とろもろの五穀ろまさ今日ろそ身に施てろろきハ德を以て世間への聞令一くその譽廣こそろうなろうもろ人の身よ施りのハ文繡の衣服なろう君子ハづまろろ人の心をバ願ろうろ事なしとぞ

○孟子曰仁之勝不仁也猶水勝火今之為仁者猶以一杯水救一車薪之火

火を救う猶熄不ㇾ之を水火ㇾ勝不と謂此又不仁ㇾ與るの甚きㇾ者亦終ㇾ必らㇾ亡ぶㇾ已

孟子の曰く五穀ハ種之美なる者なり苟も熟セ不と為黄稗ㇾ如不夫仁も亦之を熟もるに在已

也不ㇾ熄則謂之水不勝火。此又與於不仁之甚者也亦終必亡而已矣

○孟子曰五穀者種之美者也苟爲不熟不如黄稗夫仁亦在乎熟之而已矣

孟子の曰く羿之人ㇾ射を教ゆるㇾ必らㇾ志ㇾ於彀ㇾ學者も亦必らㇾ志ㇾ於彀ㇾ大匠人ㇾ誨ゆるㇾ必を以ㇾ規矩ㇾ學者も亦必らㇾ以ㇾ規矩ㇾ

時ハ黄稗ㇾ不如まㇾ熟するをㇾ願ㇾ ぐまくのと学ぶべきをなり

亦必志於彀大匠誨人必以規矩學者

○孟子曰羿之教人射必志於彀學者

告子章句下

任人有問屋廬子曰禮與食孰重曰禮重色與禮孰重曰禮重

任ハ國の名なり任の人の問なり屋廬子ハ御

羿ハ弓の達者なり然ㇾ人ㇾ中るの手諫ハ教へうㇾ手前ㇾ かさもるほをおしゆる迫なり彀とハ弦を引つて發さる迫の所まう

学者もまㇾ志ㇾ學ぶ者も又規矩ㇾ以て教ㇾ大匠ㇾ大工の法と教ㇾ規矩ㇾ以て教ㇾ聖人の道も心を正ㇾ身と脩ㇾ之規矩と用ㇾ

告子章句下

任人有問屋廬子曰禮與食孰重曰禮重色與禮孰重曰禮重

任ハ國の名なり任の人の問なり屋廬子ハ御

曰禮を以て食を
バ則ち飢て死を
禮を以てせ不ー
て食まれバ則ち
食を得必ず禮
を以てせん乎親
迎まれバ則ち妻
を得不親迎せ不
バ則ち妻を得必
らず親迎せん乎
屋廬子對ること能
ハ不

門人なう人の礼を守
の咎ハ礼元より重ー
礼ハ元より重ー曰以禮食
得食必以禮乎親迎則得妻必親迎乎屋廬子不能對（任の人難して）
則得妻必親迎乎屋廬子不能對
曰くたとバ乱世にて飢て死るんとする時一人ある食物
ありて他人と吾と二人の時礼を以バ他人へゆづるべきなう然バ
我死ーて道よかるべきや如何ようさたとバ妻を迎るに
父母に告ずんバ親く迎るの礼なて表向よりむかへんとをれバ
一生りつべうもぞ礼を
ざるなうもぞ礼を
屋廬子之を聞て
答ること能ハざ
曰於答是也何有（その明の日鄒に之てその事を孟子に告奉ること
明日之鄒以告孟子孟子

明日鄒に之て以て
孟子に告孟子の
曰く是よ答るに於
て何う有ん

其本を揣不ー孟子の仰せこゝハ古の事答うに何も
て其末を齊ふ
セバ方寸之木も岑
樓より高う使
可ー金ハ羽より重
き者かう豈一鉤
の金と一輿の羽輿
之謂を謂ん哉

其末二方寸之木可使高於岑樓金重於
羽者豈謂一鉤金與一輿羽之謂哉（この理
こそ非なる理とふのたとバ岑樓と高をそゝんこと其
本を揣こゝびーて未のこゝて齊見とさバ方寸のみ
こそも樓ようる高うるゝ鳥の羽と金銀とハ羽ハ元より軽ー然ども一の金鉤
と輿と積ーハとハくゞもつゝ自由なうもて重さて
取食之重者與禮之輕
者而比之食重取色之重者與禮
之輕者而比之食重取色之重者與禮
之輕者而比之奚翅食色重往應之曰紾
兄之臂而奪之食則得食不紾則不得

食之重き者と礼
之軽き者與を取
て而ーて之を比セ
バ奚ぞ翅食のゝ
重うん色之重き
者と礼之軽き者
與を取て而ーて
之を比セバ奚ぞ翅

食則將紾之乎踰東家牆而摟其處子則得妻不摟則不得妻則將摟之乎

右の如く仕人のしくべうハ食色の重きところゝ礼の軽きのごとくなるべし何となれバ食ハ兄の臂を紾てうバひとゝきハ兄と食と重きのごとくなるぞよろしからざるの隔あるときて敬まれバ食を得べし礼義ハ得がたくバ兄の臂を紾てうバひとゝきハ食と色と重きのごとくなるべしと雖ども右やうの問答ハまことに正しく背くや文隣の家なる處女を妻とちんと欲まるに牆を踰て恐ることあるの時ハいつぞちん心ある者兄と手むこんもなるべうべうしきこと東家の息女をも不義ぞとおもふべし是等の理ハ筆ニハ尽しがたし理の異やうなるを好ひらのなり

○曹交問曰人皆可以爲堯舜有諸孟子曰然交聞文王十尺湯九尺今交九尺四寸以長食粟而已如何則可

曹交ハ曹の君の弟なり問奉まろうこゝハ脩行うそて聖人堯舜のごくうもなるべしとのことあるや如何孟子御答らうこそ然なり曹交ハ白く兼てうけうろ処王の御身の長ハ十尺ありそ湯王ハ九尺なりうち亜も聖人ろうまろ小拙者の身ハ九尺四寸なり聖人と異なることなし然るに食料をそのみ而已なり如何して可ならん

曰奚有於是亦爲之而已矣有人於此力不能勝一匹雛則爲無力人矣今曰舉百鈞則爲有力人矣然則舉烏獲之任是亦爲烏獲而已矣夫人豈以不勝爲患哉弗爲耳

御答奚ぞ是の理有ん道をたゝく雛鳥一匹を舉の外なし亦是ハ烏獲為ん乎已夫人豈勝不を以て患と為哉為ざるのみ

弗耳

徐行後長者謂之不弟夫徐行者豈人所不能哉所不爲也堯舜之道孝弟而已矣

自由まそと能ハぢんバるれ力ある人なり又右者の烏獲が引挙る任を挙る人ハられ大力の人にて即ハちまの人烏獲とうみて勝劣あるみづきをなう今日身の行ひに於てかの勝ごのときゝて患べ〳〵ハ多くハ心をつとめて為ハざるなう志ざ〳〵して行〳〵べ〳〵能ハざるいえまたなり〳〵

徐行後長者謂之不弟夫徐行者豈人所不能哉所不爲也堯舜之道孝弟而已矣

祇敬といふまそとバ道を行ふ年長ら人となら〳〵び行バ必ず徐ふあゆみて後てゆく〳〵之を弟とらふ先ごろて疾く行をバ不弟とらふなり孝と弟との道ハ人を重とび身を引こけ人をのごるるそのごとく〳〵徐ふ行ふそのごとくなり〳〵

子服堯之服誦堯之言行堯之行是桀而已矣

子堯之服を服し堯之言を誦し堯之行をひと行ハ孝弟已

子服桀之服誦桀之言行桀之行是堯而已矣

是堯已子桀之服を服し桀之言を誦し桀之行を行ふ〳〵是桀已

曰く交邠君よ見ゆるを得て以て館を假可願ハくハ留つて業を受ん

曰く夫道ハ大路のごとく〳〵然ども豈知難らんや人求不ざるを病耳子歸て之を求ゞバ餘師有ん

○公孫丑問曰高子曰小弁小人之詩也孟子曰何以言之曰怨曰固哉高叟之爲詩也有人於此越人關弓而射之則己談笑而道之無他疏之也其兄關弓而射之則己垂涕泣而道之無他戚之也小弁之怨親親也親親仁也固矣夫高叟之爲詩也

公孫丑問て曰く高子曰く小弁ハ小人之詩なり孟子の曰く何を以て之を言ふと曰く怨むなり曰く固哉高叟之詩を爲むる人此に有り越人弓を關て之を射バ則ち己ま談笑して之を道他無之と疏なり其兄弓を關て之を射バ則ち己を涕泣を垂て之を道他無之と戚なり小弁之

怨ミ親を親ーむ孟子批判しなり親を親ーむなるとき元小弁の詩ハ高叟の詩の說ごとく其の兄弟の主君の寵ハを妹ハ仁なり固ーく大高叟之詩を爲むる

曰く凱風何ど以て怨ミ不曰く凱風ハ親之過まち小ーこさなる者なり小ハ親之過まち大なる者なり親之過まち大ーて怨ミ不是愈ーく疏むなり親之過まち小ーて怨む是磯を可う〜不愈ーく疏む不孝なり磯を可

を射人とも然ども觀べ〜交々跡さ他人ゆへなり忠のしなり前後を覺へなり一人なりてもあり其ときバ他人の事なるこバ笑ひ談道てもらゑを泣を垂ーて道べきなり親親なるを以てなり

曰凱風何以不怨曰凱風親之過小者也小弁親之過大者也親之過大而不怨是愈疏也親之過小而怨是不可磯也愈疏不孝也不可磯亦不孝也

公都子又曰く凱風の詩ハ何ゆへよ怨ミ不ごとくその母ゟその七人の子ごを養育ハ大なるーて詩なり御答凱風ハ親の過失大なるーて怨ミざるハその心根疏遠

う不亦不孝乎孔子曰三人行必有我師其至孝なり五十にうて慕

宋牼將ㇾ楚ㇾ之ㇾ秦ㇾ遇ㇾ於石丘ㇾ曰先生將ㇾ何ㇾ之ㇾ曰吾聞ㇾ秦楚ㇾ兵ㇾ構我將ㇾ楚王ㇾ見ㇾ而說ㇾ之ㇾ罷ㇾ兵ㇾ將楚王悦ㇾ而我秦王ㇾ見ㇾ而說ㇾ之ㇾ罷ㇾ兵ㇾ將二王我將ㇾ遇所ㇾ有ㇾ不ㇾ利ㇾ也ㇾ曰軻請其詳ㇾ願ㇾ聞ㇾ其指ㇾ說ㇾ之ㇾ將何ㇾ如ㇾ曰我將ㇾ言ㇾ其ㇾ不ㇾ利ㇾ也ㇾ曰先生之志ㇾ則大ㇾ矣ㇾ先生之號ㇾ則不ㇾ可ㇾ曰我將ㇾ言ㇾ其ㇾ不ㇾ利ㇾ也ㇾ曰先生之號ㇾ則不ㇾ可ㇾ曰我將ㇾ言ㇾ其ㇾ不ㇾ利ㇾ也ㇾ曰先生之志ㇾ則大ㇾ矣ㇾ

を懐て以て其君
亦事人の子為者
利を懐て以て其
父よ事へ人之弟
為者利を懐て
以て其兄よ事
是君臣父子兄
弟終よ仁義を
去て利を懐て以
て相接るなり
然して亡不者未
之有未
先生仁義を以
秦楚之王よ説ハ
秦楚之王仁義と
悦んで而して
三軍之師を罷ん

弟者懐利以事其兄是君臣父子兄弟
終去仁義懐利以相接然而不亡者未
之有也
楚の王と説ハ三軍の徒輩も戦の罷と利とを悦べし凡て人
罷めんと其三軍の
るるの利欲を悦び心にうけて君父にもつ時
身の亡びざるハなし
先生以仁義説秦楚之王秦
楚之王悦於仁義而罷三軍之師是三
軍之士樂罷而悦於仁義也為人臣者
懐仁義以事其君為人子者懐仁義以
事其父為人弟者懐仁義以事其兄是
君臣父子兄弟去利懐仁義以相接也
然而不王者未之有也何必曰利
仁義又
小ふるの理をのべて師を罷ハ實に道にうつべし
仁義の心を以て君父にうつへ接ることハ能ハ天下に王たる
なうべきなり何ぞ必ず
利をとくをいわんや

○孟子居鄒季任為任處守以幣交
之而不報處於平陸儲子為相以幣交
受之而不報

孟子へ御交りといふことハ
いくさをもつて平陸に居るの時齊國の相儲子幣を
以て交りと通ず一時も孟子
受納うるて未さ報礼なうず一

是三軍之士罷ると
楽んで仁義を悦
ぶなう人臣為者
仁義と懐て以て
其君よ事人の子
為者仁義と懐て
以て其父よ事人の
弟為者仁義を
懐て以て其兄よ
事是君臣父子
兄弟利を去仁義
を懐て以て相接
然して
王さず不者ハ未ざ
之有未何ぞ必ず
利と曰ん

孟子鄒に居季任

見季子由平陸之齊不見儲子屋廬子喜曰連得閒矣

他日鄒人任の方へ之くとて季子に逢て礼をなすべく又齊へ之く時ハ儲子に逢ふ事もなくて屋廬子喜悦て曰僕ところ一間を得たり先生に問奉らんとあつて連ハ屋廬子の名

問曰夫子之任見季子之齊不見儲子爲其爲相與

夫子今度季子に小ハ遇ふて儲子に

曰非也書曰享多儀儀不及物曰不享惟不役志于享

御答その義に八非也元享儀に八儀の在となり又享物多しとも享物の誠さゝざると儀の物に及ざるとあり

儀儀不及物曰不享惟不役志于享

報礼をなすに八あめ八季子ハ君のてがりなれバ軽くゆべからず

齊不見儲子爲其爲相與

連ハ屋廬子の名

問曰夫子之任見季子之齊不見儲子屋廬子喜悦或問之屋廬子悦或問之屋

孟子の住居まで伺ふとなるべき行となり

孟子曰惟志之所在

孟子書經の意

孟子曰惟志之所在

孟子書經の意

享つゝしむこゝろと通ずるを以て享と假せり

其享を成不ざるなり

享ハ賢人を敬まる沢用ゆ

屋廬子悦或人之を問屋廬子曰く季子儲子を得不儲子ハ平陸に之を得

淳于髡曰く名實を先よまる者八人の為ふまる〳〵名實を後よまる者ハ自ら為よまるなり夫子三卿之中ふ在て名實未ざ上下よ加ハら未之を

淳于髡曰く惟志之所在と雖享に假せ不ざるなり

享ハ賢人を敬まる沢用ゆ

其享を成不ざるなり

屋廬子悦或人之を問屋廬子曰く季子儲子を得不儲子ハ平陸に之を得

淳于髡曰く名實を先よまる者八人の為ふまる〳〵名實を後よまる者ハ自ら為よまるなり夫子三卿之中ふ在て名實未ざ上下よ加ハら未之を

淳于髡曰先名實者爲人也後名實者自爲也夫子在三卿之中名實未加於上下而公之仁者固如此乎

或ひとの事を問屋廬子答て曰く季子ハその時の宜事なるべき行となり儲子ハ平陸に在て孟子の住居まで伺ふとなるべき行となり

淳于髡曰先名實者爲人也後名實者自爲也夫子在三卿之中名實未加於上下而公之仁者固如此乎

淳于髡曰く者ハ事實あつて名譽あるなり〳〵ハ世の用ら也國を治め民をめぐむの慈なり

去仁者ハ固ヨ此の如き乎

孟子の曰く下位ヨ居て賢を以て不肖ヨ事ヘ不者伯夷なう五ゞ湯ヨ就五ゞ然ト就ハ伊尹なう汗君を悪不小官ゞ辭セ不者柳下惠ヨ三子者ハ道を同ふせ不其趨ヨ一なう一者何ぞ曰く仁なう君子ハ亦仁已何ぞ必ぞ同ふせん

道を世の外ヨたの一ツハ吾身をつゞよくなう今先生ハ三卿の中ヨ在ゞ上ヨ名誉なく下ヨ事實なー仁者ハかゝのものゝよくなう○大國ヨハ卿大夫三人あて國の權威ゝ重子その中ヨ在ー孟子曰居下位不以賢事不肖者伯夷也五就湯五就桀者伊尹也不惡汗君不辭小官者柳下惠也三子者不同道其趨一也。一者何也曰仁也君子亦仁而已矣何必同御意ゝ人を見ヨ下ハ在らゐゝ賢德あらゞ

曰く虞ハ百里奚を用不而ヨて亡秦の穆公ハ之を用て而て霸う賢を用不ハ則ち亡削何ぞ得可與

曰く普王豹淇よ處河西善謳緜

曰く魯の繆公之時公儀子政ゝと為子柳子思ゐく為魯之削滋く甚そゞー是の君ヨ賢者之國よ益無なう

曰く魯繆公之趨ハ一節なう一ツ何ーれ

之時公儀子爲政子柳子思爲臣魯之削也滋甚若是乎賢者之無益於國也

髪又曰く昔魯の君繆公の時公儀子ハ政務ゝ攝子思ハ臣下となる然ゞも魯の國の削弱なう益なゝ

曰虞不用百里奚而亡秦穆公用之而霸不用賢則亡削何可得與孟子又仰セ子ハ用ふゝと用ふゝと奚を用て天下ヨ霸者ゝなゝと一人の百里奚始ハ愚知ふて後ヨ知縁ふハあゝも用ゞゝ國亡ふゝふる削ゝのゝなう昔者王豹處於

駒高唐ノ處齊ノ右善歌華周杞梁之妻善其夫ト哭シテ國俗ヲ變ゼ諸ヲ内ニ有レバ必ラズ諸ヲ外ニ形ハシ其事ヲ爲ニ！テ其功無者髡未ダ嘗テ之ヲ覩未是故ニ賢者無ナリ有バ則チ髡必ラズ之ヲ識

曰ク孔子魯ノ司寇ト爲用不從ツテ而シテ祭ル燔俎ニ肉至不來ルヲ而シテ行知不者以爲肉ノ爲ナリ其知者以爲禮無ガ爲ニ乃チ孔子ハ則チ微罪ヲ以テ行ヲ欲セ苟ク小ヲ君子ノ爲ヲ欲セ不君子之爲所衆人固ク識不

淇而河西善謳縣駒處於高唐而齊右善歌華周杞梁之妻善哭其夫而變國俗有諸内必形諸外爲其事而無其功者髡未嘗覩之也是故無賢者也有則髡必識之

髡又曰ク昔者王豹ハ善謳ヒ河ノ西ニ住居セリ河ノ西地ノ人々善謳ヒ歌ヲ駒ト歌ヘバ其ノ妻ハ齊ノ西邑ニテ夫死シテ哭ヲ爲ニ其如ク德内ニ在バ名ヲ外ニ形ハル事ヲ爲ニテ其功ヲ有ル者ハ覩ケザル人ノ當時ヲ識ヌトモ髡ガ識ヌトモ

曰孔子爲

魯司寇不用從而祭燔肉不至不稅冕而行不知者以爲爲肉也其知者以爲爲無禮也乃孔子則欲以微罪行不欲爲苟去君子之所爲衆人固不識也

孟子又作ヲ述ヲ昔者聖人ノ心ヲ胸中ハ君子ノ心ヲ人ハ小人ノ心ヲ推シテ之ヲ故ニ聖人ノ御心ハ不知人ハ燔肉ノ爲ニ祭ヲ祀ノ爲ニ略ヲ而シテ去ル行ヲ其ノ意趣ヲ私ノ意趣

孟子之曰、五霸ハ三王之罪人なり、今之諸侯ハ五霸之罪人なり、今之大夫ハ今之諸侯の罪人なり、

天子の諸侯を適を巡狩と曰、諸侯の天子を朝するを述職と曰、春ハ耕すに足不を補ふ、秋ハ斂むるを省給不を助く、其疆に入て土地辟け田野治まり、老を養ひ賢を尊び俊傑位に在ハ則ち慶ぐ、慶ぐ有ハ慶ぐ、よ地を以てす、其疆に入て土地荒蕪し、老を遺賢を失ひ、掊克在ハ則ち讓有、一たび朝に不ハ則ち其爵を貶、再たび朝に不ハ則ち其地を削る、三たび朝に不ハ則ち六師之を移す、是故に天子ハ討して伐ち、諸侯ハ伐して討す、不五霸ハ諸侯を摟して以て諸侯を

衆くの鄙さあるを識べきなり、

○孟子曰、五霸者三王之罪人也、今之大夫今之諸侯之罪人也、五人の霸者ハ齊の桓公晉の文公秦の穆公宋の襄公楚の莊公なり三人の聖王ハ夏の禹王殷の湯王周の文王なり、聖人仁義を以て治るに於ハ罪あり又五霸ハ今の大夫る者今の諸侯の為ニハ罪あり其子細ハ左の如し、

天子適諸侯曰巡狩、諸侯朝於天子曰述職、春省耕而補不足、秋省斂而助不給、入其疆土地辟、田野治、養老尊賢俊傑在位則有慶、慶以地、入其疆土地荒蕪、遺老失賢、掊克在位則有讓、一不朝則貶其爵、再不朝則削其地、三不朝則六師移之、是故天子討而不伐、諸侯伐而不討、五霸者摟諸侯以伐諸侯者也、故曰五霸者三王之罪人也、

（先王の德本巡狩述職の論ニ）

伐者なり故に曰く五霸は三王之罪人なり

五霸は桓公を盛となすと為す葵丘之會に諸侯牲を舍き載書を載て而して血を歃らず不孝と誅し曰く不孝と誅し樹子と易ること無かれ妾を以て妻と為ること無かれ再命に曰く賢を尊ぶこと才を育なくして以て有德を彰はせ二命には老を敬い幼を慈しみ賓旅を忘るること無かれ四命に曰く士官を世にすること無かれ官の事を攝ること無かれ士を取るを得ざれ大夫を專殺すること無かれ五命に曰く防を曲むること無かれ糴を遏むること無かれ封有て告ずして無かれと曰く凡我同盟之人既に盟の後言好み歸ることを今之諸侯は皆此五禁を犯す故に曰く今之諸侯は五霸之罪人也

若しくは土地荒蕪あらひは聚斂をとうとして賢を勤あるひは讓ありてやゝもすれば来朝を怠る時は其爵を削りそれを再び来朝なくれば封内の地を削りひ三たびして及ざれは六軍の師をその國へ移し正しうするを討つ而して命を蒙て攻伐ことあり然れ共諸侯伐めさるの故に三王ようにして却てこれを伐つ諸侯を假て執ひとを以て天下を取んとうるの人なり五霸桓公爲盛

古の霸者は三王ようにして諸國をとうとうの實は仁義を假て見ることは五霸は罪あるの人なり

葵丘之會諸侯束牲載書而不歃血初命曰誅不孝無易樹子無以妾爲妻再命曰尊賢育才以彰有德三命曰敬老慈幼無忘賓旅四命曰士無世官官事無攝取士必得無專殺大夫五命曰無曲防無遏糴無有封而不告曰凡我同盟之人既明盟之後言歸于好今之諸侯五霸之罪人也五霸の中にては桓公の德盛なり葵丘の地にて諸侯を會して天下の事を議て盟ふ時は牲の牛を束ね載書を載てまづ血を歃らずして初の誓言を命じて曰く不孝のものは之を誅せよ世嗣に樹つるに子を易ること無かれ妾を妻となすこと無かれ再び命じて曰く賢德の人をたふとび才ある人は之を育し德ある人は之を顯し三たびの命に曰く老たるものを敬ひ年幼きを慈み旅人賓客をとうとく待らふことを忘るゝこと無かれ四たびの命に曰く諸侯の士臣官役を世々同じ家にす

之罪人なり

君之惡を長ハ其罪かなう君之惡を逢ハ其罪大なり今之大夫ハ皆君之惡を逢故ニ曰く今之大夫ハ今之諸侯之罪人なり

曾慎子と使將誠ハその罪大なりこの故ニ今の大夫ハ今の諸侯の為ニハ罪人なりとハいふ

軍と為んと欲ス

孟子の曰く民を教ヘずして而して之を用ゆるを民ヲ殃ス之ヲ謂ふ民ハ尚ほと謂ふ民ハひもと謂ふ民ハ尚ほと謂ふ民ハひもと謂ふ民ハ尚ほと謂ふ民ハひもと

曰吾明告子天子之地方千里不千里不足
以待諸侯諸侯之地方百里不百里不足
以守宗廟之典籍（孟子の曰よハ然ハ明ふかく告もめさむ）
慎子これをきゝて勃然（ハ）て慌びさ〳〵て曰くくれ
滑釐が識てなく〳〵といふ滑釐ハ慎子の名なり曰吾
子ふ告ん天子之地方千里千里ふ
不バ以て諸侯を待うけて閼置よさゝを又諸侯ハ
方百里百里なく
不バ以て宗廟之
典籍を守ふ
足不足

周公之魯ふ封
ぜ方百里為地足
不ふ非を而して
百里ふ儉なり太
公之齊ふ封ぜら
れ方百里為地足
不ふ非ど而して
百里ふ儉なり
今魯方百里なる
者五つ子ふ為王者
作うて有バ則ハら
魯損ずる所ふ在
乎益所ふ在乎徒
ふ諸を彼ふ取て
以て此ふ與然バて
且仁者ハ為不況ん
やん人を殺して以て
之を求もるふ於て
乎
君子之君ふ事ふ
る務て其君を
て以て道ふ當仁
ふ志ざと已

也而儉於百里（昔者周公ふ魯を封ぜらるに不足なく
時いづれも百里四方ふ儉ふひて少〳〵も
國の格式不足なくとなり）今魯方百
里者五子以為有王者作則魯在所損
乎徒取諸彼ふ與此然且仁
者不為況於殺人以求之乎（志ある魯の國ハ小
國をあハせ呑て百里四方の地五つをたらして今
より王者出ずんバ法を正〳〵ふ地を損てまでふ益を
所ある〳〵仁者の為べきなく〳〵ま泥や人を殺〳〵て求もの
理あんや）君子之事君也務引其君以當
道志於仁而已（今日君子の君ふ忠をいたさんといふ
ハ君を道引て道ふ當ふよ

孟子の曰く今之君務めそげむべきなり仁心を止むべしとそ
ふ事る者曰く我能君の為に土地を闢き府庫を充
し今之謂所良臣古之謂所民賊なり君道に鄉道不志於仁而求富之
ハ不仁に志ざして之を富をとめて求む是桀に富をなり我能君之為
に與國を約し戰ハ必ら克今之謂所良臣古之謂所民賊也君不鄉
君道に鄉ハ不仁に志ざして之を富をとめて求む是桀に富をなり我能君之為
に與國を約し戰ハ必ら克今之謂所良臣古之謂所民賊也君不鄉
之が為に強て戰ふを求む是桀を輔くるなり

○孟子曰今之事君者曰我能為君辟土地充府庫今之所謂良臣古之所謂民賊也君不鄉道不志於仁而求富之是富桀也我能為君約與國戰必克今之所謂良臣古之所謂民賊也君不鄉道不志於仁而求為之強戰是輔桀也

今之道に由ハ今之俗を變ざると無んハ之に天下を與と雖ども一朝居ら能ハ不

「道不志於仁而求為之強戰是輔桀也」

孟子の時代を論じ大に古風をせ〳〵なり當時の用ら〳〵臣下とる者ハ
こづ〳〵曰く我能君の為に土地田畠を辟き新聞
税斂を巧出し民の國に充る顧ふ

金銀をとりあげて府庫に充し我〳〵君の為に
國と交り與して戰爭ハ必ず克なぞ〳〵云ふ奪ひ
そふことを自賀として忠義なることもつゆまでもこれハ今の
世の良臣下とらハ古の民の奸賊なり何となれハ君の心ハ
道にそむき仁に志ざして〳〵なくその心に富貴をまとめ戰ふ
ものむそ〳〵ハ古の桀王の力をそへ輔くるものなり

由今之道無變今之俗雖與之天下不
能一朝居也

今世の道に由ひて風俗を正し
ふ安居らんべきことを
なり

○白圭曰吾欲二十而取一何如孟子
曰子之道貉道也

白圭名ハ丹といひし者一術を
田地の法二十分の一を取べし
如何となり孟子聞ふ
上へ取べし〳〵なり然ハ仁政なるべし
ひ子が道〳〵ろの事ハ夥の國の道

萬室之國一人陶則可乎曰不可
曰夫貉五穀不生惟黍生之無
城郭宮室宗廟祭祀之禮無諸
侯幣帛饔飧無百官有司故二十取一而足也
今中國去人倫無君子如之何其可也
陶寡且不可以爲國況無君
子乎欲輕之於堯舜之道者大貉小貉也
欲重之於堯舜之道者大桀小桀也
○白圭曰丹之治水也愈於禹

仰らるゝ萬室之國一人陶則可乎曰不可
所ゝて只一人陶冶師あゝて可んや白圭曰く吾の
とゝなう一人の業ゝゝて万人ハ堪ゝ器ゝくなゝゝて
用ゆるに不足ゝう曰夫貉五穀不生惟黍生之
城郭宮室宗廟祭祀之禮無諸侯幣帛
饔飧無百官有司故二十取一而足也
孟子ゝゝ仰ゝゝハ然ゝ理ゝ於て異なるこゝゝゝ夫貉の國ハ
北國寒陰の土地ゝゝて五穀の生ゝらゝゝなく惟黍のゝ生ずる
なう城郭宮殿家室なく宗廟の祭祀もなく諸侯述職
幣帛なゝゝゝゝ客ふるまひの饔飧飧ゝらゝゝもなく百官
有司ゝらゝゝもなゝゝゝの物入なきが
故に二十分の一を取ても不足なきう今居中國
之如何ゝて其可
陶寡ゝゝて且
ゝて國を為む可
ゝゝ不況や君子
無乎之ゝ堯舜之道
ゝう輕セんと欲
者大貉小貉なう
之ゝゝ堯舜之道
重セんと欲る者大
桀小桀なう
白圭曰く吾之水
を治むるハ禹よ
愈る

經史餘師　孟子四　三十五　金澤集官藏

孟子の曰く子過てり禹之水を治てり水之道なり是故に禹四海を以て壑と為今吾子鄰國を以て壑と為てあるは白圭堤を築て之を壅塞し其土地へ入こと多なり白圭こゝに入こと多なり禹王の水を治こと是なり川を通し江淮へ注ぎ海へ流こと是なり今吾子ハ鄰國を以て水の壑となん水逆行を之を洚水と謂洚水ハ洪水なり仁人之惡む所なり吾子過まてり

孟子の曰く君子亮あゝ不バ悪らん乎執ん

禹之道也是故禹以四海為壑今吾子以鄰國為壑子孟子聞めて子過矣禹之治水水之道なり今吾子ハ鄰國を以て水の壑となり水逆行也吾子過矣

流の下よ壅塞あるを名づけて水逆行といふこれを洚水洪水ともなり禹王の水を治めるひ一ハ水の通へ陸へ一ハ過失へ禹王の行てこゝ異なり吾子のこゝ過矣といふのなり

洚水者洪水也仁人所惡

○孟子曰君子不亮惡乎執ン

○曾欲使樂正子為政孟子曰吾聞之喜而不寐

曾の平公樂正子を挙用て政道を執んと欲こと孟子こゝを聞て喜らんで寐不

公孫丑曰く樂正子ハ強なる乎曰く否知慮有乎曰く否聞識多き乎曰く否然らバ則ハち奚為ぞ喜んで寐不

知慮乎曰否多聞識乎曰否然則奚為喜而不寐

公孫丑曰樂正子ハ問奉なるこハ然バ樂正子ハ當世人の尚むこゝろの強くカあるやこゝろ知慮ありや或ハ博く物を聞識の才あるなどゝいふやこゝろを孟子對ていはく否まうしバ笑の為こゝろの喜んで寐不

曾皙樂正子を使ひ信實なる人ハ出さる事ハ悪り親持のあるこゝろやと政ことを為と欲こと孟子の曰く吾之を聞て喜らんで寐不

公孫丑曰く樂正子ハ強なる乎曰く否知慮有乎曰く否聞識多き乎曰く否然らバ則ハち奚為ぞ喜んで寐不

曰其人こと為善こと好む善を好まバ足り乎

曰其為人也好善好善足乎

善こと好むハ樂正子の生得なり依て善言行を聞こと好人なり公孫丑の曰ゆるハ善と好こと十分に用事の

孟子答うつ

絲則餘師

足と云ふや
いふぐ〳〵

曰好善優於天下而況魯國乎

孟子まづ仰ふそれ上に善を好めば事十分ゝ足なりそれ上に善を好めば事十分ゝ足なりそれ上に善を好めば事十分ゝ足なり

以礼有言ハ將よ
其言と行ひと將則
ハち之よ就礼貌未
ざ衰ふ未言行
ふハ也弗ハ則ハち
之を去
其次ハ其言行ふハ
未と雖とも之を迎
る亦敬を致して
以て礼有ハ則ハち
之よ就礼貌衰へ
ハ則ハち之を去
其下ハ朝食セ不ず
食セ不飢餓門ニ
を出ず能ハ不君
之を聞て曰く吾
大なる者其道と
行ふと能ハ不又
其言よ從ふと能
ハ不我土地よ飢餓
セ使吾之を恥之と
周くも亦受可也
死を免ぐるに已

孟子の曰く舜畎
畝之中ふ發り傅
說版築之間ふ舉
膠鬲魚鹽之中ふ
舉管夷吾ふ舉
孫叔敖ハ海よ
舉百里奚ハ市ふ
舉ふ

禮言將行其言也則就之禮貌未衰言
弗行也則去之（君よう德を敬ひ礼を斟酌して遇〳〵て言ざるとハ則ハち用ひらるゝなきとも去て世よ出べし）其次雖未行其言也迎之致敬以
有禮則就之禮貌衰則去之（その次ハ言よその用らるゝ否ハ
立去）其次雖未行其言也迎之致敬以
有禮則就之禮貌衰則去之（その次ハ言よその用らるゝ否ハ
ふくなきとも官よ就て世よ出べし君の礼貌おとろへなバ官ハ弗を見バ官緣をとゝ
ろくとも去）其下朝不食夕不食飢餓不能出門戶（君よう德を敬ひ礼義を以て迎ることハ官に就て
事ることなくとも可なり時ハさら去〳〵）
君聞之曰吾大者不能行其道又不能
從其言也使飢餓於我土地吾恥之周
之亦可受也免死而已矣（ものあり子細ハ朝
夕食事なくとも及で門戶を出ざる時君よう飢餓と聞出さゞる
道を行なふこと能ざるその土地と飢人となんとハ識と恥辱ふ
ハ周くこれを救んと欲ふ
悔の詞あるとハ死ん
とするとも免ざるの
ふ受べし）

○孟子曰舜發於畎畝之中傅說舉於
版築之間膠鬲舉於魚鹽之中管夷吾
舉於士孫叔敖舉於海百里奚舉於市

（古への名ある人〳〵世よ出ざる由来をたゞひろふに子細ありてなるとも舜帝ハ農人にて畎畝の
中よう傅說ハ版築の間よう膠鬲ハ魚鹽の中よう舉用られ管夷吾ハ諸士の中よう舉らるとも

故ゆゑに天大任と是人に降さんと將必ずまづ先其心志と苦しめ其筋骨と勞し其體膚と餓し其身を空乏にし行ふ所と拂亂する所以

孫叔敖ハ海邊の住居より百里奚ハ市町の中より擧ひらき

故天將降大任於是人也必先苦其心志勞其筋骨餓其體膚空乏其身行拂亂其所爲所以動心忍性曾益其所不能

小道德の大任をまつ人ハもと天帝より是人の名を擧しめ福と降しんとの思召なりまづその人の心志を若勞ろさしめ筋骨と勞し體膚も餓よおうべ身の空乏ぞんくと困窮にうさせて身ともろ〳〵操節を守てうや幸福のめぐり來らんとてまづさまざまの拂亂そぐうの餘のとに正さ心も崩と動んとてまづ性根をどうとし堪忍をなして忍ぶく所不能とともにく身よおもく德と曾益てよう〳〵憂の益情よゆるわうその心も富貴繁昌心ふらるなうかそして世の爲人の爲ともなりて

人恒よ過まち然し後能改むる心よ困もんで慮ふ衡とう而して後よ作る色よ徵ハして聲ふ發して而して後よ喻入ハ則ハち法家拂士無出ハ則ハち敵國外患無者國恒よ亡

人恒過然後能改困於心衡於慮而後作徵於色發於聲而後喻入則無法家拂士出則無敵國外患者國恒亡

入ハ恒よ過まち然し後よ能改むる心よ困もんで慮ふ衡とう而して後よ作る色よ徵ハして聲ふ發して而して後よ喻入ハ則ハち法家拂士無出ハ則ハち敵國外患無者國恒よ亡

入恒よ過まち然し後よ能改むる心よ困もんで慮ふ衡とう而して後よ作る色よ徵ハして聲ふ發して而して後よ喻入ハ則ハち法家拂士無出ハ則ハち敵國外患無者國恒よ亡

入恒よ過まち然し後よ能改むる心よ困もんで慮ふ衡とう而して後よ作る色よ徵ハして聲ふ發して而して後よ喻入ハ則ハち法家拂士無出ハ則ハち敵國外患無者國恒よ亡

入恒よ過まち然し後よ能改むる心よ困もんで慮ふ衡とう而して後よ作る色よ徵ハして聲ふ發して而して後よ喻入ハ則ハち法家拂士無出ハ則ハち敵國外患無者國恒よ亡

然して後よ憂患よ生て安樂よ死るを知

入恒よ過まち然し後よ能改むる心よ困もんで慮ふ衡とう而して後よ作る色よ徵ハして聲ふ發して而して後よ喻入ハ則ハち法家拂士出ハ則ハち敵國外患者國恒よ亡

孟子の曰く教も亦多術あり子が屑とせざるの教誨者是亦之を教誨もるのみ

盡心章句上

孟子の曰く其心を盡す者は其性を知ふなり其性を知ふは則ち天を知ふなり

○孟子曰教亦多術矣予不屑之教誨也者是亦教誨之而已矣

教るの中も人くを抑へて不屑るの一方もあるなり人これを激さまじて道にまもとれは是も亦教の道なり

盡心章句上

○孟子曰盡其心者知其性也知其性則知天矣

もの段ハ心性天命の四ツを説なり心ハ萬の理を備て萬事の発もとなり人の身の本体なり心ハ性と名付る物ハ鏡のおもて心ハその照す光明をいふ

存其心養其性所以事天也

心を存て性を養なふハ天よ事る所以なり

殀壽貳ハ不身を脩めて以て之を俟ハ命を立る所以なり

天よりうくる理を性といふ因て性の本ハ天なり性ハ仁義礼知といふ天よりあつて春夏秋冬といふ定まる理あるごとく人の心を盡して後の性を知なり性を知ハ則ハち天の理を知なり天の定まる理を命といふ

殀壽不貳脩身以俟之所以立命也

性を養なふて間されざるハ天道に順ふ事なり殀壽ハ定まる理あるのみ

○孟子曰莫非命也順受其正

孟子の曰く命よ非ざる莫順ふて其正をを受

天よりうくる理を性といふ因て性の本ハ天なり性ハ仁義礼知といふ天よりあつて春夏秋冬といふ定まる理あるごとく人の心を盡して後の性を知なり性を知ハ則ハち天の理を知なり天の定まる理を命といふ

殀壽不貳脩身以俟之所以立命也

性を養なふて間されざるハ天道に順ふ事なり殀壽ハ定まる理あるのみ

俟之所以立命也 天の道人く定まる理といふものあり或ハ殀或ハ長壽又ハ富貴貧賤これなり只能身を脩て操節かたく自然の至るをまつ事なり疑ひ惑の理ハさらにそこにハ天命をそこなふ事なくして全くするといふものなり

○孟子曰莫非命也順受其正 凡て生死栄枯貧富禍災福災禍ともに天の命ふ非ざるハ莫なり君子ハ天の命ふ順ひ受て心を乱さず義ふ適を正とふ

是故ニ命を知る者ハ巖牆之下ニ立不
其道を盡して而して死する者ハ正命なり
桎梏して死する者ハ正命ニ非ざる

孟子の曰く求ハ則ち之を得舍ハ則ち之を失ふと是求ハ得る有ハ求め得る益無き求ハ外ニ有者なり

を不義とせよう〳〵覚りの正さなき悪うる心を乱さんして頽受なう富貴言瑞を受頽ざるハ

之下ニ

命を覚知りのハさとへてしらず巖牆の下ニハ作逃となしとう

盡其道而死者正命也

身を守道を尽して死まるをこそ正命とハらふなり

桎梏死者非正命也

そこ自うう罪をもらざるあるこハ桎梏がセつるなり

○孟子曰求則得之舍則失之是求有益於得也求在我者也

いまゝめ逢まとハ死まるハ命の正さとりのこと

今日志さゝをとてく求まとハ我ニ得て我物となる者あり心ニ舍まとハ得ざるあり其上身ニ得て益ありまうまとハ求ざるとハ

我心ニ在て人の由ておこるその求ふく物とハ何ぞ仁義礼智の徳なり

求之有道得之有命是求無益於得也求有外ニ

者也

又人〳〵求ぐこと紀物ハ求得て無益なることとなう子細ハ

えず来その品を求ふ時ハ明ふ求ざるとなう然バその求る物ハ外ニうてうと心ふ得ざることなのう由りのうあるざるとを知つてうとなう其求ざるとして人〳〵求めむさぼるとハ何ぞ富貴利欲の財宝なう誠ニ利欲栄曜を願ハ身の為ニハ利欲栄曜にあざる理を知ハ常ニ身となるべきなう

○孟子曰萬物皆備於我矣

君臣の間ニまるべき物とハ父子の接なう小さき品ハ何一事何物ゆまるべき物とらふ然ニその理を推とゝさハまる我心ニ

孟子の曰く萬物皆我ニ備ハる

五嘉業堂藏

身に反て誠なれバ樂しミ焉ようより大なるハ莫し強恕して而て行ふ仁を求もること焉ようより近きハ莫し

孟子の曰く之を行なふて而て著ハるまで不習て察らなく不身終まで之を由て其道を知不者衆し

得ざるとも之を我身に備るとハいふなり

○馬ようその万物を一く吾身うそうそうに求得べし大学子悪臭を嫌ひ好色を樂ごとく實よ

誠ように出て手よく人をバ感ずるなり

樂ごと元ように莫大焉

強恕而行ふ求仁莫近焉

我心を推おしひろめて人の怡悦憂歎の情を察し一人の善悪を見てこれを鑑となし誠ように恕そうて強行ふ

とハいふなり仁義の道を求るの法

これように近きことハなしとぞ

○孟子の曰く行」之而不著焉習」之而不察」焉終身由」之而不知」其道」者衆也

人常に身ふ行ふことありて著らかに行ふことをしらざるあり又習おぼえて却て其理を察たづねざるものあり是を以て終身由あゆめども知と云ものあり衆ハおほくの如しとぞ

孟子の曰く人以て恥無ること無る可らず不恥ること無之恥ハ恥無きの恥と無し孟子の曰く恥之人於る大なり

機巧之巧を為者ハ恥を用ゆる所無し人ハ若不を恥ハ何ぞ人ハ若と有ん

孟子の曰く古へ之賢王ハ善を好て勢ひを忘る古へ之賢士ハ何ぞ獨

○孟子曰人不可以無恥無恥之恥無恥矣

人ハ恥とらざるを恥とす

○孟子曰恥之於人大矣

人の行事ハ義と重ハ恥辱を知ハ即ち義を知なり恥を知ハ人となり獣の獣となるハ貴ふべきを知て人ハ旅て大なり恥を知ざるハ禽

為機巧之巧者無所用恥焉

機械巧詐の心を作為ものハ人ありていくらそくバ世俗そしらざるともその者をづから恥とせず

不恥不若

人何若人有行事の人ハ若ざることを恥と思ハさるものハ何ぞ人ハ若との有ん

○孟子曰古之賢王好善而忘勢古之賢士何獨不然樂其道而忘人之勢故

然ら不ん其道を樂んで人之勢とひを忘る故ぐゆくよ王公も敬ふ致ー禮を盡不ハ則ち亟くこれを見るを得不見ゆる且猶亟くとるを得不而ふを況んや得てこれを臣とする乎

孟子宋句踐よ謂て曰く子遊を好む吾子よ遊ひを語らん人之を知る亦置置置人知不る亦置置置

王公不致敬盡禮則不得亟見之見且猶不得亟而況得而臣之乎

古への明君賢王ハ盡德と重賢者のこころも然ふて尊ふて身位高なる權勢ある事を忘却いて尊敬ひまひとでハ亟く見ゆる遑をたのしむの貴を知て人君の權勢ある事を忘却いて尊敬ひまひとでハ亟く見ゆる遑をたのしむの貴を知て人君の

○孟子謂宋句踐曰子好遊乎吾語子遊

宋句踐ハ當時諸侯の國一の遊囮ー説ー示ふ事ー名を舉ー依て孟子の思召の遊留ー説示のこころを語ふ

人知之亦置置置人不知亦置置置

人ふ名を知らくとも不知とも只道のー説ー

日く何如なる斯ふ以て賢置置る可賢置置る可

故ぐゆくよ士窮ー義を失ふハ不達ー道と離ふを不窮ー義を失ふハ不故ぐゆくよ士已と得達ー道と離ふを不故ぐゆくよ民望ふを失ふハ不古ー之人志ざーと得ハ澤民ふ加る志ざーと得不ハ身已の身ハ賢置賢置賢置ハ缶欲自得の負なり

曰何如斯可以賢置賢置矣

句踐の日く何如ふてー賢置賢置ー

曰尊德樂義則可以賢置賢置矣

御答ふ今日德を尊ふて常ー善を好ふ義を樂ふて心ー利欲を絶ふハ固よう心やすく外へ誘ふことなー

故士窮不失義故士得已

馬達不離道故民不失望焉

古之人得志澤加於民。

不得志脩身見於世窮則獨善其身。

修之世見ル窮セレバ則チ獨リ其身ト善ク達セレバ則チ兼テ天下ト善ヲ

孟子ノ曰ク文王ヲ待テ而後興ル者ハ凡民ナリ若夫豪傑之士ハ文王無ト雖ド猶興ル

孟子ノ曰ク之ヲ附ルヲ韓魏之家ヲ以テスルガ如キ其自ラ視ルコト欿然タルニ

孟子ノ曰ク伐道ヲ以テ民ヲ使ヘバ勞ト雖ド怨ミ不生ズ道ヲ以テ民ヲ殺セバ死ト雖ド殺ス者ヲ怨マ

孟子ノ曰ク霸者之民ハ驩虞如シ王者之民ハ皞皞如シ

達則兼善天下

古ヘノ人何ゾモ志ザシヲ得ズ人ノ上ニ立ツコトヲバ恩沢下ニ及ボシ功ヲ忘ザシト得ズシテ下ニ在ルバ身ノ行ヒヲ脩テ名ヲ世ニ見ハサント思ヒ窮ノ時ハ操節ヲ善クシ達スルニ依テ困窮ノ時ハ操節ヲ善クシ高位ニアルバ天下ヲ善クシ兼テ治ムルコトナリ

○孟子曰待文王而後興者凡民也若夫豪傑之士雖無文王猶興

古ヘノ聖王ト称スル中ニモ徳盛ンニシテ國ヲ栄達シテ高位ニアルノミニテモ善ク兼テ治ムルコトナリ

○孟子曰待文王而後興者凡民也若夫豪傑之士雖無文王猶興

周ノ文王ナルトモ人ヲ化シ人ヲ附ケ善ク兼テ治ムルハ文王ノ身ニ徳ヲ抱ザルノ理ナリ

○孟子曰附之以韓魏之家如其自視欿然則過人遠矣

其ノ殷ノ孟子仰ノ主意ハ文王ノ徳ヲ見ルヒ待テ得テ名アルヲ世ニ興ルノミニハ凡常ノ人民トイフモノナリ一万人ノ傑ト称スル士ハ雖ソノ文王興ルヲ世ニ在ルヲモト雖モ一人ノ傑ト称スル士ハ雖ソノ文王興ルヲ世ニ在ルヲモト雖モ一人ノ傑ト称スル士ハ雖ソノ文王興ルヲ世ニ

○孟子曰附之以韓魏之家如其自視欿然則過人遠矣

其ノ殷ノ孟子仰ノ主意ハ文王ノ徳ヲ見ルヒ待テ得テ名アルヲ世ニ興ルノミニハ凡常ノ人民トイフモノナリ一万人ノ傑ト称スル士ハ雖ソノ文王興ルヲ世ニ在ルヲモト雖モ一人ノ傑ト称スル士ハ雖ソノ文王興ルヲ世ニ

孟子ノ曰ク之ヲ附ルヲ韓魏之家ヲ以テスルガ如キ其自ラ視ルコト欿然タルニ

孟子ノ曰ク伐道ヲ以テ民ヲ使ヘバ勞ト雖ド怨ミ不生ズ道ヲ以テ民ヲ殺セバ死ト雖ド殺ス者ヲ怨マ

孟子ノ曰ク霸者之民ハ驩虞如シ王者之民ハ皞皞如シ

○孟子曰霸者之民驩虞如也王者之

孟子ノ曰ク霸者ノ民ハ驩虞如シ王者之民ハ皞皞如シ

○孟子曰霸者之民驩虞如也王者之

之

之を殺して怨を不
之を利して庸あら
不民日ん善よ遷
て之を為者を知
不

夫君子の過所の
者化と存する所の
者神なり上下天
地與流を同ずる
豈之を小補のみ
曰ん哉

民皞皞如也　齊の桓公ハ霸者の長なり孔子ハ
懐ふくうつて只人を
聖王者の道ハ常
霸者の下ることあバ甚かるべし驩虞くゆ夫をうらゆる
ぶゆくなり王者の下ることあバ何となく皞皞如なりそ

殺之而不怨利之而不庸民日遷善而
不知為之者　王者仁義の政道の時ハ殺さるゝ
怨となく國の利なることゝなりて
身の利の為ることゝなく依て已う功庸ともせんで
下民ハ自然と徳ふくうつ徳ふくうつ化し善道ふくうつやうと学び
て為ることゝを自うし
不知となり

夫君子所過者化所存者神上下與天
地同流豈曰小補之哉　誠に君子ハ五帝三王又ハ聖人孔夫子らづまも
徳の厚御過ある所ハその徳おのづから人を化し

孟子の曰く仁言ハ仁聲之入人深也
仁義の政ハ民之よ喜る
善教ハ民之と愛
善政ハ善教之民と
得ること如不

留まる所ハ神威のあらゝかなることを見るなり天地の
徳こゝろ合てその徳流わたることなり中く霸者の
如く小く世を補塞のたぐひなるべし

○孟子曰仁言不如仁聲之入人深也
仁言とハ人よ仁義のことを説ふくうつ仁義ハ仁心の
聞ふくうつ然ども仁言ハ已が口よりうち出ることなり仁声ハ人の
志ざして誰らくみせざるべんや　仁義よ善政不如善教
傳てとなふるふう
之得民也　善政道とハ法度の條目禁令の制なり
善教とハ仁義孝弟の道理を教ふくうつ
ーて論五ロよ在ごくく人く心よ恥ふくうてあうて格ふくうつ
なふくう依て善政ハ民の心を得ることハ如不とハいふかなり

善政民畏之善政得民財
善教得民心　政ハ道の法のごうとして心ふくうつ民畏て服
なふくう善教ハ民

孟子の曰く人之学び不所うて能る者其良能なり慮不所うて知者其良知なり

孩提之童も其親を愛するを知不して無其長ずるを及ず其兄を敬するを知不して無親を親しむハ仁なり長を敬するハ義なり他無之を天下に達するなり

中慮て帰服まるるなり政道を整ふる時ハ下うう金銭を取ル心安〳〵善教ハ万民の心を取得なり

○孟子曰人之所不學而能者其良能也所不慮而知者其良知也

孩提之童無不知愛其親也及其長也無不知敬其兄也親親仁也敬長義也

不知敬其兄也親親仁也敬長義也無他達之天下也

孩提之童ハ二三歳孩提ぞうの童子。其親を愛ス〳〵そ〳〵ふことと自然と心ニ知りのあるなり年長てハ其ことその兄を敬意その心ニ愛ることを悪むと是なり良知良能とハ是なり右のごとくその知ざるハなく〳〵ものハなし〳〵

孟子の曰く舜之深山之中ニ居木石與居鹿豕與遊ぶ其深山之野人ニ異なる所以の者幾んど希なり其一の善言を聞一の善行を見ニ及で江河を決るが若く沛然として之を能禦て莫

親を愛〳〵まるるなり聖人天下の民を治めふ仁義の心を天下ニ廣め達まるまでなり

○孟子曰舜之居深山之中與木石居與鹿豕遊其所以異於深山之野人者幾希及其聞一善言見一善行若決江河沛然莫之能禦也

舜帝のいまだ賢人ニ逢ざる時ハ木石の如く鹿豕と群ニ居て賤野人と異なること幾希なり凡て恥王人を観その心ニ人に勝ん事を欲ふ舜道を訪ひ行ひの觸感ある事ハ大河の決て大水のなだれて尽くなるが如く聰明睿知天下の善事ニ勝る舜帝の大徳より出が如く聰明睿知の発る処ハ江河の決て大水のなだれて尽くなるが如く聰明睿知ハざるなく〳〵舜の徳の大なる所以なり

孟子の曰く其為不所を為す無其欲せざる所を欲せざる無此の如くかぎるのみ

孟子の曰く人之徳慧術知有者恒存乎疢疾

○孟子曰無為其所不為無欲其所不欲如此而已矣　人くふるの事ハ為べからざること人人ありて人人この事ハ欲すべからざるものなり然るに私欲ありの一そびも心にきざすことあるときハ敵この内通じて城を為ずして誰以てこの不忠を為んとするの心ありのはしその上意をこゝろ好む理ハなけれども利欲の汚これを所を為すにかゝる不義に致なるに依て不為ことあるなり人所を欲ざるこれを如此なる而矣とぞ道とハいふなり

○孟子曰人之有徳慧術知者恒存乎疢疾　徳と心に得る理なり慧と以て未然をこゝろ察おとなるべきそこちあるを術と事をた就ていふ術知とハ事を心に得る理なり其事をよく知るを徳慧術知の徳と胸中に備ふるとハ身の安楽かる者ハおのづから人しらず愚昏なる者ハ前より出ず細ハ意の如く疢疾と心を操と危く其患を慮と深く故ゝ少も達をざる事なる人なる者有

孟子の曰く君之獨孤臣孽子其操心也危其慮患也深故達

○孟子曰君人者事是君則為容悦者也　君ハ天降大任の章の如く困窮とらるゝ同じ獨孤臣孽子ハ細ハ前より出ず遠ざけらるゝ孤ぐちの臣下し嫡腹なる孽子の心慮ら憂患をとらるゝ死心操危きに觸感ていふ

○孟子曰有事君人者事是君則為容悦者也　もの段人品同じからず大小甲乙あること論なく人情義理ら通用なる人ハ君ふるう人ハ主君より事て得ハ容悦ひて君の意を得ず容体をうごかし或ハ畏ちこゝハ悦をいふことをこゝ

○孟子曰安社稷為悦者也　さゝ君の御家の事ハ

悦ぶを為者也
天民なる者有達
して天下を行ふ
可くして而して後
之を正行なふ者
なり
大人なる者有已
まを正ふして
而して物正きを
者なり

孟子の曰く君子
の三の楽しみ有
而して天下の王

存じ社稷を安んじ守護する事を一念とする者あり社稷安き時は心悦に懌ざるものあり

有天民者達可行於天下而後行之者也

天の民と称すべき者あり天恩を守て天道を恐れ盡まことに名
民と称べき者あり天恩を守て天道を恐れ盡まことに名
付るのみ志を達し一天下を行ふの時いう而後行ひて
天下を安ずるとなり時を得ざれば身を終るまでも
世に知られざるとなり甚心ちの死ぬまで用ふることを願ふ
者あり徳至て
大略四等あり吾こに詳容
有大人者正己而物正者也

大人にして殊に盛なる在処ありて化をなすものなり右人品不同
を得て悦びとなす為のハ等に足ず社稷を安ずるハ忠
の厚きなり然ども一國の士なり天民ハ國に興ふ
ざるなき意を用て必定の事を勉ることなく大人にして
意なく必なく甚身在処ハ化せざることなし

○孟子曰君子有三樂而王天下不與

存焉 君子の楽とする事ハあれども
之を況て官祿富貴のごときハ
父母俱存兄弟無故一樂也

条ハ先父母そろひて倶に存へ兄弟なく
仁に近き肉縁叔父母の類も故障のさることなく
仰不愧於天俯不怍於人二樂也

俯ハ覚なく天道に愧ず人道に怍ざる身行なり
得天下英才而教育之三樂也

第三ハ天下より英秀抜知の人を得て聖人の道を教へ徳を育ふ
人の大道を弘め後世に傳ふる所の人幾方といふ限なし
然ども死ハこの大道てふ
うべき人あるをバ甚恩沢を蒙る所の人幾方といふ限なし
あるべ
君子有三樂而王天下不與存焉

君子の楽しみハ之を過るてあらず

孟子の曰く廣土衆民君子之を欲すと雖も樂む所焉よりは存ぜず

○孟子曰廣土衆民君子欲之所樂不存焉

廣き土地を保ち衆の民百姓を治めて仁知を用て恩沢ある事を及ぼさんと欲ざるなり然ども樂むべき所にはあらず

天下の中に立て四海の民を定め君子之を樂しむ性とする所に存ぜず

中天下而立定四海之民君子之所性不存焉

又天下に君臨して中央に立て

君子の性とする所大に行なはるゝと雖ども焉よりは加わらず窮居して不損ずと雖ども焉よりは損ぜず分定まるが故なり

民君子樂之所性雖大行不加焉雖窮居不損焉分定故也

君子ハ

君子の性とする所仁義禮智天道自然の分の仁義礼智の心より根ざし睟然として其色より生ずと雖ども見ると聞て興て曰く盍ぞ歸せざる盍ぞ歸せざる吾聞西伯ハ善養老者と太公紂を辟て北海之濱に居文王作ると聞て興て曰く盍ぞ歸せざる盍ぞ歸せざる吾聞西伯ハ善養老者と太公紂を辟て東海之濱に居文王作興

君子所性仁義禮智根於心其生色也睟然見於面盎於背施於四體四體不言而喻

君子の尊ぶ所ハ天より受くる所の性仁義礼知の性を全くして用らるれバ國家の為にこれを行ひ用らざれバ已が身を清く脩め天下に道ひ用らるゝ時ハ達して大に行ハれ窮困なる時ハ身を修めて德を揚ぐるの故なり

仁義礼知の性元より積て益〻厚きハ色に發生して睟然として盎背に溢れ其德の施こうさびとなり自ら以て不言して喻ふるが如し

孟子の曰く伯夷紂を辟て北海之濱に居文王作興

○孟子曰伯夷辟紂居北海之濱聞文王作興曰盍歸乎來吾聞西伯善養老者太公辟紂居東海之濱聞文王作興

曰盍歸乎來吾聞西伯善養老者天下有善養老則仁人以爲己歸矣（伯太公）

（西伯公ハ善賢人ヲ尊ビ老ルヲ養ナル君子出ルヿ盍ー（ニ）ソレ帰テ服セザラン乎）

五畝之宅樹墻下以桑匹婦蚕之則老者足以衣帛矣五母雞二母彘無失其時老者足以無失肉矣百畝之田匹夫耕之八口之家可以無飢矣（文王御政道の時かくの如く定あり）

（右のごとく天下よく老ることを養ナル時ハ賢者仁人ともに已が歸ごころとなること）

（墻の下に桑を植て時節を失なハざれバ老者以て肉を養なふ）

（帛を衣ること事を欠ざる雞ハ二ツを母五ツ彘ハ二ツを母となしてその時節をうしなハざれバ家雞ハ同く老る人の肉食のやなひとし他ハ一の巻なり）

所謂西伯善養老者制其田里教之樹畜道其妻子使養其老五十非帛不煖七十非肉不飽謂之凍餒文王之民無凍餒之老者此之謂也（右西伯の老ることを養ふの法制く田里を定め桑と雞彘の法も右五母二母のまゝことく教へ妻子へまもあー道ずおさて老体の保養をとらしむ文王の封内ハ此之謂なり）

○孟子曰易其田疇薄其税斂民可使

（失なふこと無き足百畝之田四夫之耕さバ八口之家以て飢ること無る可し所謂西伯ハ善老者を養なふ其田里を制して樹畜を教へ其妻子を道ずき其老を養なハ使五十ハ帛を非ざれバ煖なく七十肉を非ざれバ飽不煖なく不飽不之を凍餒と謂文王之民凍餒之老者無と此之謂也）

孟子の曰く其田

疇を易め其規斂を薄くし民を富使可
之を食なる時を以て之を用る小礼を以て財勝つべ用可うう不
民水火に非ざれバ生活せ不昏暮ふ人之門戸を叩き水火を求め與へ弗者無ハ至ら足聖人天下を治む菽粟有て水火の如くなる使菽粟水火の如うて而て民焉んぞ不仁なる者有ん乎

孟子の曰く孔子東山に登て魯と小とを大山に登て天下を小とを故なり海を觀者水を爲難し聖人之門に遊者言を爲難し

富也疇を易め其規斂を薄くし民を富の法なり

使可之を食なる時を以て之を用る小礼を以て財勝つべ用可うう不

勿論魚肉諸食物とも財宝諸色の用うくハ幣幷をそぶを祀るこのなくべハ財宝沢山に用勝さまざまとろう

民非水火不生活。昏暮叩人之門戸求水火。無弗與者至足矣。聖人治天下。使有菽粟如水火。菽粟如水火。而民焉有不仁者乎

今日水と火とをかんうるにこのふるう一日もなるふ

大切なるりのうても生活ことあくハどそれらぐの

とハ昏暮て門戸をたゝき求めん誰うても與ざるりのうて

人のなるをハうるぬりの

ゑ来至足なるりのゆくろう今日聖人の天下を治うるも

人なるくろう車ハ外なるぐと菽粟の沢山なるとき石水火の如くまあるうもなるなり人く産業水火の如く至足なるバらづくの民も不たらなるりのハあるまじをなろう

○孟子曰孔子登東山而小魯。登太山而小天下。故觀於海者難爲水。遊於聖人之門者難爲言

刑容ごとくてひ第二ことを説うの終うハその聖人廣大の德と八根本あるを示しうの昔者聖人の仰う吾魯國の東山に登ふん八魯の見ぐさるを小さ心持うる魯八挽く小さ八ばの下う見ぐさるを如く思ひまて泰山う登ふれバ天下を目の下う見ぐさるの御詞あり孟子因て仰せありるハ心寛大うる社ありきとの右の如く誠に海の水を觀りのハ他の川く江池の小さ水ハ言爲難しとく聖人の門中うありて德の高きこころのく見聞

水を觀るの術有り必ず其瀾を觀日月有り容光必ず照らさらんと

流水の物為るや盈たざれば行かず君子之道や志有るに非ざれば達せず

日月有明容光必照

わざとそうでなくても日月の多少の動くを見ればなるほどと知るなり

流水之為物也不盈科不行君子之志於道也不成章不達

盈量の本根あるを知るなり人間世界の道その根源明の容を見て虚空なるその本源の主あるを知るなり

の聖人あり考うるに何物もこれを經てその徳をつむことなくそれ水の流行なるその如く君子の道を學ぶ科凹なる処ならざればすすまず一十分成るとそげ或は科凹なる処を越えて後ろそのそれへ流行なるその如く段々と胸中にて丈夫の道に達するとなく小人

孟子の曰く雞鳴て而ち起孳孳として善を為す者舜之徒なり雞鳴て而ち起孳孳として利を為す者蹠之徒なり

舜と蹠との分を知と欲せば他無し利と善との間なり

孟子の曰く楊子は爲我なり一毛を拔て天下を利すとも為さざるなり

○孟子曰雞鳴而起孳孳爲善者舜之徒也雞鳴而起孳孳爲利者蹠之徒也

君子小人の異なるや一日の間身操ぶ善事のことを孳孳として善を為す者は舜帝の門徒なり利欲を孳孳とする者は盜蹠の門徒なり朝風に起て心に利欲と善事とにこころをとゞめ雞鳴ハ夜の八ツ時雞高へ鳴ときらゝ古への盜賊なり

欲知舜與蹠之分無他利與善之間也

舜帝と盜蹠と善悪の分天地の隔絶ごとく他の義理と知んと欲ぶ他の義理とてもなく善事とてもなく利欲との間なり

○孟子曰楊子取爲我拔一毛而利天下

天下を利するも為不

墨子兼愛を頂き踵を摩して天下を利するを為

子莫中を執るは之に近し中を執て権無きを執るが猶一

不爲也

其の設當時聖人の道の異端を創め楊子も教の風儀を欲しまでも是を一義として迹を慕ひ名利を棄て山林に隠るる人も由て起る只己の身を潔くせんとて天下の人の為にとて致仕となり一毛を抜て一国を与ふるの故に土君となるの類

墨子兼愛摩頂放踵利天下。

墨子ハ天下の人を親疏の差別なく均く愛敬すると道とを知ハ遂に心の惑ひとなり天下の人の為にとて頂の上を摩で踵に至るまで天下の人の利となることを為すで故也

爲之

墨子ハ天下の人を親疏なく均く愛敬すると道とを知ハ遂に心の惑ひとなり天下の人の為にとて頂の上を摩で踵に至るまで天下の人の利となることを為すで故也

子莫執中。執中爲近之。

子莫ハ魯の賢人子莫とかや楊墨が教の道ハ中をうしなふことなれハ二の者の間をとりて用ゆ孟子之を評し給ふ

執中無權。猶執一也。

この時魯の賢人子莫とかや楊墨が教の道ハ中をうしなふことなれハ二の者の間をとりて用ゆ孟子之を評し給ふ

執一者爲其賊道也。舉一而廢百也。

一を執を惡む所の者其道を賊なふ為なり一を挙て百を廃るもの也

○孟子曰飢者甘食。渴者甘飲。是未得飲食之正也。飢渴害之也。豈惟口腹有

孟子の曰く飢る者食を甘ふし渇する者飲を甘ふし是未だ飲食之正しきを得ざるの害あり子莫の中ハ仁の道に固陋て大道を賊なふ害あり兼愛をもつて一を挙て百を廃るも時の應変

飢渴之害人心亦皆有害人能無以飢渴之害爲心害則不及人不爲憂矣

○孟子曰柳下惠不以三公易其介

柳下惠ヶ介の正きを推ゝ三公の位ハ勿論ゝ十倍の官祿なるとも必ず介を易ゝ

○孟子曰有爲者辟若掘井掘井九軔而不及泉猶爲棄井也

爲ゝ有者ゝ如ゝ一カを勞ゝ九軔の深きに及ゝ泉の処ゝ及てハ其井も棄ゝ

○孟子曰堯舜性之也湯武身之也五霸假之也

堯舜の行ひもふ処ハ性のまゝ自然なり湯王武王ハ身を脩め道を體ゝ五霸の政道ハ仁義の名を假用てをさなるものなり備ゝ前に論ずるが如ゝ

久假而不歸惡知其非有也

假て歸さ不悪くんぞ其有ゝ非ざるを知ん

孟子の曰く堯舜ハ之を性ゝするを湯武ハ之を身ゝ五霸ハ之を假

久ゝ假て歸さ不悪くんぞ其有ゝ非ざるを知ん

身を終るまで假用て歸ぬゝハ五霸實ゝ仁義を身れざれゝ有ゝとらゝものなれゝ其名を竊ゝものなれゝ

泉ゝ及ハ不ハ猶井を棄ゝと為

公孫丑曰く伊尹の曰く予不順ょ
押不太甲と桐ヽ故民大ゝ悦ぶ
太甲賢ゝて又之を反せ民大ゝ悦ぶ
賢者之人の臣為其君不賢まれバ則ハち固ょ放つ可與孟子の曰く伊尹之志ざー有バ則ハち可なろ伊尹之志ざー無きバ則ハち簒なろ

○公孫丑曰伊尹曰予不押于桐民大悦太甲賢又反之民大悦

公孫丑の問なろ書經ろ殷の第二世太甲その政道理ろ遠りまバ摂政伊尹の曰く王の政道理ろ不順ろ予もまこと之ろ押けろろバ恐ろて太甲を桐ろ万民大ゝ悦ろ土地ろ故居奉ゝつろ伊尹まこと始へ反て即位あーもろ万民まこと大ゝ悦ろ政道を正ろまバ太甲賢徳ろろろ

王子墊問曰士何事。孟子曰。尚志。曰。尚志曰。仁義而已矣。殺一無罪。非仁也。非其有而取之。非義也。居惡在。仁是也。路惡在。義是也。居仁由義。大人之事備矣。

王子墊と教へて推育もうなう志ある人ハ元より我有ることハ忘れ孝の道を守ることハ君子元より功あつて素飧ハなし是レ大なることハあるべからざるなり

○王子墊問曰。士何事。孟子曰。尚志。曰。尚志曰。仁義而已矣。殺一無罪。非仁也。非其有而取之。非義也。居惡在。仁是也。路惡在。義是也。居仁由義。大人之事備矣。齊王の御連子王子墊の問ひかうそれ人上ハ公卿大夫下ハ農工商賈とのくなう士ハその間にあつまじきハ士の事をつとむべきなう士ハ何とう志ざしを尚ぶべきや仁義の外なく仁者ハ人の罪なき常に事ともう者ハ何とう志ざしを尚ぶべきや仁義の外なく仁者ハ人の罪なきを尚ぶべきや路ハ義の場なう居ベきハ仁の場なう常に行ふべき義理なうそれを受ることなう然ハ齊人こゝる信向して賢者なうとなつぐべく然ハそれハ一簞の食一豆の羹のふ直なう仲子ハ元を辟ひ母おやと離て君の祿を食ひ君臣親類の感さへ舍すべきのふ直なう仲子ハ元を辟ひ母おやと離て君の祿を食ひ君臣親類の感さへ舍すべきハ人の道ならう大なる道を乱るべきハ奚を可とうべくんや

孟子の曰く仲子不義うして之を齊國を與而して受弗人皆之を信を是簞食豆羹之義を舍る之義なう人焉よう大なる八莫親戚君臣上下亡一其小なる者を以て其大なる者之信を奚ぞ可なう哉

者を殺さゞ義人八元より我有ることハ忘れ之を取ることなうそ身常に居べきハ仁の場なう常に行ふべき義路ハ義の場なう居べきハ仁の場なう常に行ふべき義理を出る陳仲子を論じて齊の國を人皆信之是舍簞食豆羹之義也人莫大焉亡一親戚君臣上下以其小者信其大者奚可哉前に出る陳仲子を論じて齊の國を

桃應問曰舜爲天子皐陶爲士瞽瞍殺人則如之何孟子曰執之而已矣

○桃應問曰舜爲天子皐陶爲士瞽瞍殺人則如之何孟子曰執之而已矣

御門人桃應の問なり其の段ふこの事を設て聖賢の意を觀るのなり聖人舜帝その舉るに舜の父瞽叟より一人を殺すに度を正すの士なり一人を殺すに及ばらぐ御呑皐陶元より法の重きゆへ瞽叟を執べきなり

然則舜不禁與曰夫舜惡得而禁之夫有所受之也

然則舜ハ舜禁ぜざるか曰く夫舜悪くんぞ得て而して之を禁ぜん夫之を受所ろ有り

然則舜之於天下猶棄敝蹤也竊負而逃遵海濱而處終身訢然樂而忘天下

然ハ則ち舜之を如何曰く舜天下を棄るを視ること猶敝蹤を棄るが如くにして竊に負て逃遵海の濱に處て終身訢然として樂んで而して天下を忘れん

孟子范自齊之於齊王之子也望見齊王之子之謂也

孟子范自齊に之て齊王之子を望見て喟然として歎して曰く居ハ氣を移し養ハ體を移す大なる哉居乎夫盡く人之子ゝ非ざる與

○孟子自范之齊望見齊王之子嘆

然歎曰居移氣養移體大哉居乎夫非盡人之子與

孟子范の國より齊の地へ之そろひ齊の太子を見うひそろへ

桃應の問なり然ろうに舜帝の如くあるべきなるべしとにハあらざるに舜帝父母を暴ところと論ずて

○孟子自范之齊望見齊王之子嘆

然歎曰居移氣養移體大哉居乎夫非盡人之子與

孟子范の國より齊の地へ之そろひ齊の太子を見うひそろへ

桃應の問なり然ろうに舜帝の如くあるべきなるべしとにハあらざるに舜帝父母を暴ところと論ずて

心を推ることに天下を棄うよを視ること敝蹤を棄るが如くなるべし右ハ舜帝の御心ニハ非ざる事あるハ舜帝の御心ニハ非ざる事あるハ舜帝の御心ニハ非ざる事ある

王子宮室車馬衣服多與人同而王子彼若彼者其居使之然也

況んや天下之廣居に居者乎

魯の君宋ふ之て垤澤之門に呼する者曰く此吾君に非ざる何ぞ其聲之我君に似るや此他無居相似るなり

孟子の曰く食て愛せざる之を豕交なり愛して敬せざる之を畜するなり

恭敬は敬の未だ至らざる將るに未だ者なり恭敬して實無

之宋呼於垤澤之門守者曰此非吾君也何其聲之似我君也此無他居相似也

昔者魯の君宋の城門垤沢とに所に登り高く聲を呼ぶ者ありしその守者こゝそゝめ声のやうなるとくも我君に似ることを聞てなを他の義ありて上よりし如く宋と魯と居養位大てに概似くなるとを孟子これを引てなを證とし

○孟子曰食而弗愛豕交之也愛而不敬畜之也

國家を治るの君ハ賢人を敬礼万民を愛憐徳を好うべしそ名士と食ハ豕犬の交接なり愛まもるも恭敬

恭敬者帝之未將者也恭敬而無實君

んぺ君子虛一ゝく拘まる可ゝ不

○孟子の曰く形色、天性なり惟聖人うて然一て後ち以て形を踐可

子不可虛拘

幣帛ハ進物の礼義なり人を恭敬有べきなり誠ニ恭敬の心底ハ幣帛をとりおこなふなり君子官祿ふるべゝ虛く拘まるべゝ

○孟子曰形色天性也惟聖人然後可

形色ハ耳目眉口の身体なり君ありて臣あり父ありて子あるの類まで形なり色とハ目ニ視耳ニ聞なり君臣に敬礼あり父子ニ親愛あるの類まで品異なるとも皆色なり是天なり人ニ属まる性

以踐形

形とハ耳の徳なりよく理を分るハ耳の徳なり明らかに視ハ目の徳なり聖人常人ともに形色おなじ〳〵なれども人欲とつきなり然る聖人の徳を学て然後よく形を踐おこなふなり〳〵踐行なりとおこなふなり聖人の教の跡を行とふも道を行とふも忠孝の道なり其の外何の道なり

齊の宣王喪を短くせんと欲す公孫丑曰く期の喪を為ハ猶已ま愈る乎

○齊宣王欲短喪公孫丑曰為朞之喪

齊王三年の喪を短くして一朞の喪ニせんとの思召なり公孫丑が曰く

猶愈於已乎

王の思召ハ喪をこゝろざる人なりハ愈るなり孟子曰是猶或紾

孟子の曰く是猶其兄之臂を紾きて或ハ之ニ謂て姑らく徐徐よと再云が猶一ゝく亦之ニ孝弟を教へんのみ

其兄之臂子謂之姑徐徐云爾亦教之

孝弟而已矣

この事を聞一ゝ仰せあらハそくバ人ありて兄一ニ対して無道をふるまひ臂を紾ぎ云再一異なるゝ〳〵吾子ゆるやかにゆるやかにと告ふるごとく孝弟の已ぐらゐを教訓されるばかりなり

王子有其母死者其傳爲之請數月之

王子其母死まるの者有其傳之ゝ為ニ數月之喪と

請公孫丑曰く此の若き者何如

曰く是之を終んと欲して得可からず不一日を加ふこと雖ども已に愈る夫之を禁むること莫くして為不者を謂

孟子の曰く君子之の教ゆる所以の者五つ時雨の之を化する如き者有り德を成者有り材を達する者有り問に答る者有り私淑艾なる者有

此五の者君子之教ゆる所以なり

公孫丑曰く道則ち高し美し宜く天に登るが若く然り及ぶ可からず不ゝ似り何ぞ彼ゝ幾んど及ぶ可きを為て日ふ孳孳として孳孳たる使不

孟子の曰く大匠は拙の為に繩を廢せず羿は彀を教ゆるに必ず志を盈すを為す學者は道を引くに必ず其の序を為す君子は其の中に在て躍如たり能く其の中に中る者は能く其の射に中る者に能く其の射に中る者は能く其の巧に中る者に能く其の巧に中る者は能く其の義に中る者に能く其の義に中る者は能く其の義に中る者に能く其の義に中る者は能く其の義に中る者に能く其の義

拙工の為に繩墨を改め廃せず羿の為に其彀率を変ぜず君子引て発せず躍如として中道に立て能者之に従ふ

孟子曰く天下道有れば道を以て身を殉ふ天下道無ければ身を以て道に殉ふ

為拙工改廃繩墨羿不為拙射変其彀率君子引而不発躍如也中道而立能者従之

御発するの理は大匠の弟子に易ふる古への羿が弓を人に教ふる如く引と引ざるとを教て発て中るの妙を教へ傳ふることなり一心一工夫をつくして後躍出るの妙と得道なる易さことなくもつて難きを学ぶの務あり

能ざるものハ之に従てこゝろに得ざるあるを

○孟子曰天下有道以道殉身天下無道以身殉道

天下大平にして道あるの世なれバ吾身道に由て之を行なひ用らるゝ時ハ仁義を施すべし此故に道を以て身に殉ふ身死るも道に違ざるを法度あるべき世に道そなはらず時ハ身を退て世に出ず独其道を脩て之に殉ふの未聞以道殉乎人者也

世の盛衰を以て人を殉ふ者と聞未公都子曰く滕更之門に在り若し而して答ざるハ何ぞ

孟子曰く貴きを挟んで問賢を挟んで問長を挟んで問勲労有を挟んで問故を挟んで問皆答ざるハ所也滕更二つ有

未聞以道殉乎人者也

世の盛衰を以て人を殉ふ者と聞未

公都子曰く滕更之門に在り若し而して答ざるハ何ぞ

○公都子曰滕更之在門也若在所禮而不答何也

滕君の弟滕更そなはりて道を問ざるハ何なる道理ぞ

先生の事て道を問ざるハ何なる道理ぞ

右の如くなるべきいはれなきを曲て人に殉ふることを聞つゝへぞ是ハ妄婦の子心に怪て問て曰く滕更今学公都子心に怪て問て曰く滕更今

孟子曰挟貴而問挟長而問挟有勲労而問挟故而問皆所不答也滕更有二

御発ざるべき品五ありこゝに已ヶ知の賢ことをこゝ挟りの二つに已ヶ知の賢ことをこゝ挟りの四つに勲労あるをこゝ挟りの五つに故を交たるの挟りの三つハ我年の長るをこゝ挟りの四つに勲労あるをこゝ挟りの五つに故を交たるの

孟子の曰く已可うらざるを於て已まざる者を於て薄き所無厚き所の者を於て薄きは不所無

○孟子曰於不可已而已者無所不已於所厚者薄無所不厚也

不可已事とは為さざる可からざる品なり

其進鋭者其退速

孟子の曰く君子の物を於る之を愛して仁せず民を於る親まず民を仁して物を愛す

○孟子曰君子之於物也愛之而弗仁於民也仁之而弗親親而仁民仁民而

而愛物

君子は仁愛の類皆物とうらふ君子の物を對するは愛するのみにて仁と施すに及ばず民を愛しては已が推て人を及すに物は愛して養なふとあるべし親

○孟子曰知者無不知也當務之爲急堯舜之道不以仁術施政而後及物

孟子の曰く知者は知ざる無し當に務の急なる之を爲仁者は愛せざる無し賢を親しむを急なる之を爲堯舜之知ずして物を偏愛せざるは

先務を急なり堯舜之仁なりて人を愛るを務編うう不ハ賢と親しむを急なり

智といえる子細ハ當ニ先へ務へきことを知てつとめ終あつく薄きを知ゆへなり仁者とハ人より物に至てまで親愛せずといふ事なし然バ仁者ハ何と愛せざるべきや賢人を親愛するを急務とするゆへなり堯舜に帝を若ずんで高位に挙うひ國家を治むるハ古へ聖人共に大德の上なり其の知

次第を歩ざる内ハ天下の物に周徧し能ざることあり先務を急うよ故なり堯舜の仁心ハ次第

そうしてそちらに周徧を親むことを務うよ故なり是賢人を挙大事を後にするハ君子ハ先後の道あるを知ざるりのなり

それ天下國家を治むるの大事ハ拔德ある人を挙ることを肝要なり中華のことハ人多く知ゆへ略す　天朝ハ元より中華諸方の當處ようも第一ことの例なりとえらべし大古天照神皇その政を攝政兒屋根太玉二公と挙給ひしより數たる遑なく執政家ことも比自のくの如し天朝並中華本朝とも太平つづく時ハ古格をなるまでく

人々のくろう德を修ることを好ざるハ是民よ不仁なり君よ忠なうござるりのなり

不能三年之喪而緦小功之察放飯流歠而問無齒決是謂不知務

三年の喪を能せず緦小功を察し放飯流歠して齒決無を問是務を知不と謂

盡心章句下

孟子曰不仁哉梁惠王也仁者以其所

盡心章句下

孟子の曰く不仁哉梁の惠王仁者ハ其愛をる

盡心章句下

孟子曰不仁哉梁惠王也仁者以其所

人々のくろう德を修ることを好ざるハ是民よ不仁なり君よ忠なうござるりのなり

不能三年之喪而緦小功之察放飯流歠而問無齒決是謂不知務

三年の喪を能せず緦小功を察し放飯流歠して齒決無を問是務を知不と謂

盡心章句下

孟子の曰く不仁哉梁の惠王仁者ハ其愛をる

所を以て其愛せざる所を及ぼすを謂ふ

者ハ其愛セ不所を以て其愛する所を及ぼすを

公孫丑曰何の謂ぞや梁の恵王土地の故を以て其民を糜爛(ビラン)にし之と戦ひ大に敗る将(マサ)に之を復せんとし将恐らくハ勝(カチ)こと能ハ不故ぞや

其愛する所の子弟を駆て以て之と死を殉(シタガ)ふ是之れ謂ふ所の其愛セ不所を以て其愛する所を及ぼすを謂ふ

孟子の曰く春秋に義戦無し彼此(ヒシ)善ハ則ち之有り征ハ上下を伐つ敵国相征セず

愛及其所不愛仁者以其所不愛及其所愛

仁者ハ愛心有ること猶ほ水の故に仁者ハ愛する処まで愛セざる処まで及ぶことなり

それ故に物として愛セざる処ハ却て愛セざる処より已が愛する物にまで不仁となり

となり恵王の不仁なるもまた此の如し

以土地之故糜爛其民而戦之大敗将復之恐不能勝故駆其所愛子弟以殉之是之謂以其所不愛及其所愛也

公孫丑の問なり何ぞ貪り境をあらそひて軍を動かし人民を糜爛らし

戦ひて大に敗るとも復戦ひて仇を報んとされども渾戦の故に別に人民を駆催し

る所を及ぼすを謂ふ

梁恵王章句上

二ざ戦て申も虜となりて殺さるゝなり太子ハ愛する処なり太子ハ人民ハ愛セざる処なり土地ハ人民ハ愛する処なり

対して太子に対してハ愛ざるなり然れども敵地を貪りて我土地を及び人民より五口愛する処の太子を殺すハ仁者ハ愛セざるなり

○孟子曰春秋無義戦彼善於此則有之矣征者上伐下也敵國不相征也

孟子春秋の戦を論ずるハ凡そ春秋の時義理に合ふの戦ハ有ること蓋し少なし然れども其の中に就て彼の戦争ハ此ハ正しとし義なり同格の敵國にハ征伐もすることあざるなり

孟子の曰く盡く書を信ぜば則ち書無きが如不
吾武成に於て二三策を取而已

仁人は天下に敵無し至仁を以て至不仁を伐何ぞ其血之杵を流さん

○孟子曰盡信書則不如無書　書は道を傳へ事を記し誠に宝ともすべき文辞書によりて、のびのびと実事よりも重く飾る者多し讀者よく〳〵さとりて必ずそ義理を害なふことなく書籍る処を勝手に取べし却て吾於武成取二三策而已矣　武成の篇は書經の中にて武王の紂を討ん事を記し孟子が仰ふは書經の武成を讀て其策二三牧は信じて取べし其他は信ずべからずと

仁人無敵於天下以至仁伐至不仁而何其血之流杵也　仁者は敵なふて呪てや仁心の至極を以て不仁無道の商を伐ば人を殺すの多きを理なり武王の紂を討ふ時人多く死ちしを記せり孟子仰ふ如き文辞なとは取べからず信ずべからず元来敵の人〳〵武王の徳なるをもてその味方あいなびく攻殺しを悲しみ後世不仁を戒めらるゝ御心なり

孟子の曰く人有皆我善陳を為我善戦ういふを為大ち罪也國君仁を好て天下に敵無南面して征ば北狄怨東面して征ば西夷怨曰奚為我を後也

武王之伐殷也革車三百兩虎賁三千人王曰無畏寧爾也非敵百姓也若崩厥角稽首　武王の言ハ我こゝ陳法と布善戦争と欲べきにあらず唯天下の為に暴虐なる罪人ちう元来國家に害ある者をのみ誅んと務べし仁者に敵する者あらし昔湯王の軍を出さるゝ事已に正に見さるが如し

安寧也。○猶曾也。

忽然如獸之角觸人而折其脚也。

○華去聲。

以車包圍之也。

○征之言正也。各己也。正己而後可以正人。

○孟子之曰。梓匠輪輿。能與人規矩。不能使人巧。

梓匠輪輿之人。教人以規矩作車之法。乃其職業。然不能使人之巧。猶征伐之事。正己而後可以正人。不能使人之必從。

○孟子曰。舜之飯糗茹草也。若將終身。

妄人攻伐之心。得之不喜。不得不怒。

○孟子曰。舜之飯糗茹草也。若將終身。

糗。乾糧也。茹。亦食也。

將。如字。

將終身之意。

○孟子之曰。舜之

飯糗茹草。

將終身。

孟子曰。吾今而後知殺人親之重也。殺人之父。人亦殺之也。一間耳。

五品今日

子孟子之曰。吾今而後知殺人親之重也。殺人之父。人亦殺之也。一間耳。

孟子集註大全　卷十五　三十五

將亦身之終。

○其天子為己及之。

移衣被琴鼓二女果也。

○其天子為己及之。移衣被琴鼓二女果也。被。

○舜之飯糗茹草也。被袗衣鼓琴二女果

君子之德。不貴富貴。

○舜之飯糗茹草也。被袗衣鼓琴二女果。

袗。音真。

袗衣。畫衣也。

○舜之飯糗茹草也。被袗衣鼓琴二女果。

堯之二女。

○舜之飯糗茹草也。被袗衣鼓琴二女果。

堯之貴。

○舜之飯糗茹草也。被袗衣鼓琴二女果。

堯之富

孟子の曰く古へ
之關を為ハ以て暴
を禦ぐと將今之
關を為ハ以て暴と
為と將

孟子の曰く身道
を行ふ不ハ妻子
行ハれ不人を使
ふ道を以てセ不ハ
妻子に行ふと
能ハ不

孟子の曰く利周
ぬき者必年殺
重ねてと惡ハ轉
ちく自己之を殺
きふ非る一間耳

○孟子曰古之爲關也將以禦暴今之爲關也將以爲暴

古へ關所ハ盜賊鬪
暴行一切の非常を禁め禦ら
為の如し昔右ハ
今の關所を為ハあらひ貢稅賦斂の
掛る兵異ならんぐ
兄を殺てなう殺ざ則ハち吾父を吾手に
殺とならん人の父を殺ととハ人も
亦其人の兄を殺とならん人も
重ねてと惡ハ轉ぬき其人の父を殺
ちく自己之を殺
きふ非る一間耳

孟子の曰く古へ
之關を為ハ以て暴
を禦ぐと將今之
關を為ハ以て暴と
為と將

孟子の曰く身道
を行ふ不ハ妻子
行ハれ不人を使
ふ道を以てセ不ハ
妻子に行ふと
能ハ不

孟子の曰く利周
ぬき者必年殺

孟子の曰く名と好之
人ハ能千乘之國を
讓る苟ふも其
ふ非れハ簞食
豆羹色ふ見る

孟子の曰く仁賢を
信せ不ハ則ち國
空虛ちう

と能ハ不德ふ周れ
き者邪世剛とと
能ハ不

○孟子曰身不行道不行於妻子使人不以道不能行於妻子

吾身り一道を行ハ
ざ妻子とらくぐ
永く行なふと能ハざ人を使ふ道なく
ときハ妻子の間よ帰服おこなハざるを以

○孟子曰周于利者凶年不能殺周于德者邪世不能亂

大に富さる人金銀食祿利
に周さ家ハ凶年饑饉
徳に富て周さ身の死ざるとなく
むる術を亂をとなく
あらざるなり

○孟子曰好名之人能讓千乘之國苟非其人簞食豆羹見於色

誠に人の重とすべき
りの八名にあらずや
名を大切とおもひ
て辭讓をなん若
一豆の事も惜そ
そくあらくと
色に

○孟子曰不信仁賢則國空虛

國に仁人賢者あれバ
君の思慮を助て自然に好俊の者ども八ず隱ろくなり
仁賢の人を信ずハざると是國に人なくこよりの

禮義無れバ則ち上下亂る
政事無れバ則ち財用足不

孟子の曰く不仁よ
して國を得者之
有不仁ふして而
て天下を得
之有不

孟子の曰く民を貴
として爲社稷之
次に君を輕
爲
是故に丘民を得
天子と爲天子を
得て諸侯と爲諸
侯を得て大夫と爲

諸侯社稷を危
きバ則ち變置

大夫朝明智民の類も
その例なるとふ

○子曰民爲貴社稷次之君爲輕

大九國家の建
社ハ土地の神穀ハ五
穀の神なり君ハ社稷と庶民との二
なり然うして民を重として
其ハ次ハ社稷其ハ次ハ君なるとふ

爲天子得乎天子爲諸侯得乎諸侯爲大夫

天子の故ハ公
大夫を保て王となるの
天子の純心を得
の方の心を得を重
大夫となるうと是類を以て
推ハ天子ハ民うと輕
し

諸侯危社稷則變置

諸侯ハ國家の
民危く社稷を危
きバ則ち天子ハ民うと
變置

空虛といふ

無禮義則上下亂

禮ハ國家の
規矩
上下
人の心定ふ

無政事則財用不足

政事ハ
等大
小ふ
政事
乱るとふ

無政事則財用不足

政事ハ法度の定なり田地の法金銀の度
等大小ふ政事ふ乱ハ時ハ國の財宝之く
乱るとふ

無禮義則上下亂

禮ハ國家の
規矩
上下
人の心定

犧牲既成粢盛既潔祭祀以時然而旱乾水溢則變置社稷

孟子曰聖人百世之師也伯夷柳下惠是也故聞伯夷之風者頑夫廉懦夫有立志聞柳下惠之風者薄夫敦鄙夫寬奮乎百世之上百世之下聞者莫不興起也非聖人而能若是乎而況於親

也齊を去諸を捨て而して行他國を去之道也

孟子の曰く君子之陳蔡之間不免も上下之交り無

貉稽曰く稽大不口才理あ〳〵不孟子の曰く傷〳〵無士ハ憎茲多口

國之道也 もの章厥れ出〳〵

○孟子曰君子之尼於陳蔡之間無上下之交也 昔者聖人陳蔡の尼ゝあひうみのトもろ上も下も一向に風儀こゝを立て交接の道なし〳〵君子ハ孔子なり

○貉稽曰稽大不理於口 貉稽とりゝ者の曰く人ハ衆の人と称せ〳〵て誉言をそう秘言ハ訓大つご人口ゝ理なし〳〵とその語う

孟子曰無傷也士憎茲多口 御誉心を自〳〵傷とうなれ凡そ士とう者ハ能徳を脩まハ妬をうくるとあう道高さん至ハ謗そそる事常なり悪きとあつて悪くとハ格別の事なう勤行とハ已ゝあり誉毀〳〵多くの口ゆりてゝ詩の辞そ〳〵

詩云憂心悄悄慍于群小孔子也是不

詩云憂心悄悄慍于群小孔子也是不

珍厥慍亦不殞厥問文王也 詩の心寶ゝ小人の理を分ちと詩ゝ小人の慍をもてめぐ〳〵殄不〳〵ともと心憂とハあ〳〵悄悄そ〳〵ゝ悄悄とハ小人の群がつて妬こ慍とハ分なうの古よう聖人の御身も此の如〳〵殄不〳〵ともと敬徳の問ちと詩ゝ小人の慍をもてめぐ〳〵殄不〳〵ともと心憂とハあ〳〵悄悄そ〳〵ゝ悄悄とハ小人の群がつて妬こ慍とハ分なうの古よう聖人の御身も此の如〳〵殄不〳〵ともと敬徳の問

殞ハ是文王の御身にあるべ〳〵

○孟子曰賢者以其昭昭使人昭昭今以其昏昏使人昭昭 古へ賢者の位ゝあつて自ら身を昭昭ゝて人を昭昭

おのれ居て人を昭昭れおさめんとう今の上ゝう人〳〵ハ吾身昏氏昏れ

○孟子謂高子曰山徑之蹊間介然用之而成路爲間不用則茅塞之矣今茅

孟子の曰く賢者其昭昭を以て人を昭昭さら使今其昏昏を以て人を昭昭さら使

孟子高子ふ謂て曰く山徑の蹊間介然ゝて用て路と成為間

用不ㇾ則ㇾ伐ㇾ芽之
を塞ㇾ今茅子之
心を塞

高子曰禹之聲尚
之聲ㇾ尚ㇾ子孟子
の曰く何をㇾ以てㇾ之を
言曰く追豪蝨をㇾ以て
ㇾ

曰く是奚ㇾ足ㇾ哉城
門之軌兩馬之力與

齊饑陳臻曰く國人
皆夫子を以て復ㇾ
を發を爲ㇾ將ㇾ
復ㇾ可不や

孟子の曰く是爲ㇾ
を爲ㇾ也晉人馮婦
ㇾ有善ㇾ虎を
搏ㇾ卒ㇾ善士ㇾ爲則
ㇾ野ㇾ之衆有ㇾ虎
ㇾ負ㇾ嵎を

塞子之心矣

高子ハ蓋シ孟子の御門人ナラン異端の術を学ビ山の徑ヲ步行スルハ介然トシテ大ナル路トナルモ常ニ用テ蹊間ヲ行ヒ暫ク草茅ヲ塞ゲテ志ヲ遂ルガ如ク心中茅塞ヲ覚ユ

○高子曰禹之聲尚文王之聲孟子曰何以言之曰以追豪蝨

高子の説ニ禹王ハ治水ノ勞ニ心ヲ盡シ文王ハ德勝ヲ專ラニセラレシ故ニ高子ノ耳ニハ禹王ノ聲ヲ重テ仰ギ孟子ノ仰セニ何ヲ以テ故ヲ言ヘリ豪蝨ハ蚤虱ノ如キ微蟲ニシテ鐘ノ追ヲ見ルガ如シ

兩馬之力與曰是奚足哉城門之軌

孟子重テ仰ノ是何ヲ言ヘリ足ンヤヲ城内ハ廣ク馬車ヲ容ルヽ處ニシテ城門ハ車ノ通ルヽ處ナリ

過ㇾ之轍あとを相輻ㇾ觸ゆくを所ㇾ
一兩の車二馬の力
るぐるぐる千餘年
尚をれハ
あゝ

○齊饑陳臻曰國人皆以夫子將復爲

齊ノ國大ニ饑饉國勢ノ陳臻曰ク今國中ノ民ハ悦ビ歸ス

發棠殆不可復

婦者善搏虎卒爲善士則之野有衆逐

虎負嵎莫之敢攖望見馮婦趨而迎

之馮婦攘臂下車衆皆悅之其爲士者笑之御呉孫馮婦と云ふ者の事を爲におなぢ國の力士にて善虎を搏ふちゝの

馮婦と八晉の國の力士にて善虎を搏ふちゝの悪行をなをしゝ後ゝ改めて善士となり善人ろゝと称美せしゝその頃或日山野を過ゆきしゝふ衆多の士民虎を逐出をまつるに虎山の嘯をなぶそたそうて蹲居て誰以て敵ゝん攘りのなし馮婦の来ゝるを望見て悦て趨ぎ迎へゝるとバ馮婦勇て臂を攘て車ようり下ゝる衆ゝの人ゝゝゝ悦ゝびゝゝるとなゝり心ある士バ笑ひゝ今あの心バ孟子前ゝの用ゝるとゝうひしゝ少ゝゝ王小喩ゝしゝゝゝ今王ゝバ德を好尚ゝふ心そしゝ然バ即ちて孫恥をとるの道ゝ

○孟子曰口之於味也目之於色也耳之於聲也鼻之於臭也四肢之於安佚也有命焉君子不謂性也

孟子の曰く口之味ひを於ふる目之色を於ふる耳之聲を於ふる鼻之臭を於ふる四肢之安佚を於ふる性也命有君子バ性を謂不

二之父子を於ふる義イ之君臣を於ふる礼之賓主を於ふる智之賢者を於ふる聖人之天道を於ふる命也性有君子命を謂不

まゝでいあまバ孟ゝ子ゝ如ゝくゝ蠐螬ゝ好ゝの欲をとゝをらの色をむさぼり聞よと悦び臭ゝとなの心類ふ四肢身体の安佚を好ふと是を性ふらふろうるの性の中ゝ命ゝとゝつゝりの存ろる命と八右形ありて欲ろるもゝこゝろゝゝゝバなろうゞゝしゝ賢賤富貴足不足短命長壽分限の定あり是を命ゝとゝうて性を謂ざゝとなろ仁之於父子也義之於君臣也禮之於賓主也智之於賢者也聖人之於天道也命也有性焉君子不謂命也

仁ハ愛と自然の理定まりあり仁ハ愛と主ゝうて父子の道ゝ附屬しゝ義ハ敬ひと主ゝうて君臣の道ゝ屬しゝ礼ハ恭ゝゝと主ゝうて賓客ゝ天の道ゝ屬ゝ一智ハ明辨ゝうと主ゝうて賢者ゝ屬ゝ一天道ハあまねく万物をめぐゝ養育を主ゝうて聖人ハ道ゝ

浩生不害問曰樂正子何人也孟子曰善人也信人也何謂善何謂信曰可欲之謂善有之己之謂信充實之謂美充實而有光輝之謂大而化之之謂聖聖而不可知之謂神樂正子二之中四之下

○浩生不害問曰樂正子何人也孟子曰善人也信人也何謂善何謂信

浩生不害ハ齊の人なるべし如何なる人ぞと問奉つる御答に善人と信人との間を兼ねたる事ぞ

曰可欲之謂善

御共善事のみを欲ひ

有諸己之謂信

誠に身に行て違ふ事なきを

充實之謂美

善事充滿して胸中に積て德義いよいよ美人といふ

大而化之之謂聖

その大人の德自然に人民を敎化して人力の及べき所にあらざるを

聖而不可知之謂神

聖人の至德妙惡の測るべからざる事なるを神人といふ事あるにあらざるこれ

浩生不害問て曰く樂正子何人を子孟子の曰く善人也信人也何をら善と謂何をら信と謂

曰く欲可之を善と謂諸を己に有るを之を信と謂充實之を美と謂

有之を大と謂

詩に曰く烈文辟公天下之を則ると

聖にして之を化するを大と謂

聖にして之を知り可からざるを之を神と謂

樂正子二之中四之下

孟子の曰く墨子は兼愛を言ふ頂を摩して踵に放つて利天下に為すなり

也楽正子は善信二の美大聖神の四の下になり

○孟子曰逃墨必帰於楊逃楊必帰於儒帰斯受之而已矣今の世の執中は権なり異端の道は廃なり開廃は異端の道を逃れて必ず儒に帰するなり儒帰は斯ち之を受くるのみ又已

今之楊墨與辯者放豚を追ふが如し既に其の亡羊を得て之を繋ぐを為すに従つて之を救ふ

孟子の曰く布縷の征粟米の征力役の征有り君子は其の一を用て其の二を緩め其の二を用て其の一を緩む

孟子の曰く諸侯は宝は土地人民政事珠玉を宝と為す者は殃ひ必ら其の身に及ぶ

與楊墨辯者如追放豚既入其苙又従而招之近ごろ楊墨の徒輩折角正しきに帰して訛まうなりの来るりのを悦ぶ心厭なるときバその熟わひ込まれ楊子の学者りしその非を覚る時ハ必ず楊子墨子を学ぶりの入るりー楊子の学者ハ己が道うの

以て其殺見んと將
を知り其人と為ら
ーきに才有未君子
の大道を聞未則
つち以て其軀を
殺るを足已

孟子勝不之て上宮
小宮に饗を備上
ゐ舘人
之を求て得弗
或ひと之を問て曰く
是の若乎從者之
麼を也曰く子是を
以て備を窮が為

將見殺曰其為人也小有才未聞君子之大道也則足以殺其軀而已矣

盆成括とう者家を掠られて住られハ二百余批判
ーうふやうさの心恐らくハ殺さるゝに至ちんとなう御人ん

いろなる故と問御人曰君子の大道を聞て妄の知ることを用ひおこるふりの八五十
足ル とそ其の後うの揃つおう非命の死をいこもう

○孟子之勝館於上宮有業屨於牖上館人求之弗得

勝の君う招ゐまのひて上宮といへる別殿に舘ろふ舘を家業とさちろりのあう牖の上に屨を
置そこを失ひくまバくられを求めさうやとなう 或問

之曰若是乎從者之麼也曰子以是為

曰く殆んど非也夫子
料を設る往者を逆
不来う者を拒
不結ーこも是心
以て至ハ其名を受
已

孟子の曰く人皆忍
不所有之ふ其恐
ぶ所ろ達ふ仁也
人皆為不所有之

従者の麼しるをてそ外
を以て屨を竊うふめに来りのとう

竊屨来與

或人ハもと賢の若ーありふことそてりや御門人ら

○曰殆非也夫子之設科也往者不追来者不拒苟以是心至斯受之而已矣

あう人その非なるーことを悟て口やハふの義うて酌て
なーー夫子の教道引うの外の科条を設うふう就て名のごく
の仕合なう夫子の法人の疵失の往者に有ーとハ追こゝめ
夕人を改めて善道うふ進来ふうーー者ハ拒こゝめうふ人を道ふ
向こゝろと改さへ至バ斯そく受ふこゝろ之
屨を竊が為とナーふハあーぞとなく

○孟子曰人皆有所不忍達之於其所忍仁也人皆有所不為達之於其所為

を其為所不達を義也

人能人を害ヒ不ル欲
達ることを義と
いふなり

義也

凡そ人の病ハ小め善事ハつるこのまざるてゝ
不忍惻隠の心あり それを悪ことそていふ
ても所不為ところよ悪愧の心あり それを常に敬ひ仍
人能充無欲害人之心而仁
不可勝用也人能充無穿踰之心而義
不可勝用也

凡そ人を害なひ傷つけん
ことを欲りのハあらゝその心こそ仁の性にそなはり
ても人これそれそも壁を穿牆を踰ゆる心あらゝその心
を推て廣め充ーめバ仁の道用ひ勝
て盡そなふ義の発もるなうその心を
充ーれバ義用勝べからず

人能充無穿踰之心而義
不可勝用也人能充無所往而不為義也

凡そ人
ても

淵泉ことに ひろき時ハ取ても盡ざる
発ともるなうその心の實をおし充ーれバ義の

受爾汝之實無所往而不為義也

士未可以言而言是以言餂之也可以言而不言是以不言餂之也是皆穿踰之類也

士未可以言而言是以言餂之也可以言而不言是以不言餂之也是皆穿踰之類也

士未ざるを
ることを

凡そ人を言ハ場所ふさ言を以て人を釣て手ふ餌とふりのなりもと言ハ
言ぎて人よう乞求めもる手段あり題ハ不言ふも以て釣て手ふ餌とふりのなり題ハ是ふ人をうごかやふきこと
ふて穿踰の類たり

○孟子曰言近而指遠者善言也守約而施博者善道也君子之言也不下帯而道存焉

孟子曰言近而指遠者善言也守約而施博者善道也君子之言也不下帯而道存焉

孟子の曰く言近ーして指遠者ハ善言也
守約ーて施ーて博ーきものハ善道也君子之
言帯を下ーて道存ーするなり

君子之守其身を脩て天下平らへ
人其田を舍て人之田を芸ざるを病
人亦人の所の者重
自ら任ずる所の者輕し

子曰堯舜ハ性ろう者也湯武ハ之ヲ反もど

動容周旋礼ヲ中ろう者盛徳之至也死を哭して哀しむハ生者の為ニ非ず経徳回ふるを不ルを以て禄を干もとるふ非言語ヲ必ずしも信ぜられを以て行ふこと正をふ非ず

えーきみ君子ハ法を行ひて以て命を俟ち已

德之至也哭死而哀非為生者也經德
不回非以干祿也言語必信非以正行
也動容周旋中禮者盛德之至也哭死而哀非為生者也經德
不回非以干祿也言語必信非以正行
君子行法以俟命而已矣

孟子の曰く大人を説ハ則ち之を藐ど其巍巍然を視ること勿

堂高さ數仞榱題數尺我志ざす所を得ると雖も為弗食前方丈侍妾數百人我志ざすを得ると雖も為弗般樂飲酒驅騁田獵後車千乗我志ざす所を得ると雖も為弗彼を視ること此を視るが如し之を制也吾何ぞ畏れん彼を哉

○孟子曰説大人則藐之勿視其巍巍然

大人の對するハ當時の諸侯尊貴の人〳〵といふハその法心〳〵之を藐輕て説ことなり巍巍然を畏るゝ是不礼を行なふことにあらざるを辞なり

堂高數仞榱題數尺我得志弗爲也食前方丈侍妾數百人我得志弗爲也般樂飲酒驅騁田獵後車千乗我得志弗爲也般樂飲酒驅騁田獵後車千乗我得志弗爲也在彼者皆我所不爲也

泥ざる丈夫をいふ

○堂高數仞榱題數尺我得志弗爲也在彼者皆我所不爲也古之制也吾何畏彼哉

願ふ〳〵やむ〳〵条左の如くなる志ざし大なる者ハ其の品〳〵自由なるを以て之を為のごろ小人の

在我者皆古之制也吾何畏彼哉

あゝ其の品先大人がごとの家居ハ堂の高さ數仞榱の題ハ數尺あるひハ食饌の前ニ丈四方侍者數百人あるひハ般樂酒を飲ふまゝ馳て田猟ことに供奉の車ハ千乗かゆの類彼ら在てハなるとふも古へ恥玉人の制法ろうこれを以て觀ときハ彼ら魏魏然

○孟子曰養心莫善於寡欲其爲人也寡欲雖有不存焉者寡矣其爲人也多欲雖有存焉者寡矣

足をとなう

ろうりの八道〳〵

孟子の曰く心を養ふよハ寡欲より善ハ莫其人と為寡欲なれバ存せ不者有と雖とも寡ろ其人と為多欲なれバ存する者有と雖とも寡なし

○曾晳嗜羊棗而曾子不忍食羊棗

曾晳曾子の父曾晳羊棗を嗜むを以て曾子羊棗を食するに忍ざるなり

公孫丑問て曰く膾炙と膾と孰か美き孟子の曰く膾炙ハ同じ

公孫丑問て曰く膾炙と膾と孰か美き孟子の曰く膾炙ハ同じ

膾炙ハ美き所也羊棗ハ獨き所也名を諱て姓を諱ざる所也名ハ獨さる所也

膾炙ハ美き所也羊棗ハ獨き所也名を諱て姓を諱ざる所也名ハ獨さる所也

曾子何為膾炙を食て羊棗を食せざるや

曾子何為膾炙を食て羊棗を食せざるや

膾炙所同也羊棗所獨也諱名不諱姓

膾炙所同也羊棗所獨也諱名不諱姓

公孫丑問曰膾炙與羊棗孰か美き孟子曰膾炙哉公孫丑曰然則公孫丑問曰膾炙與羊棗孰か美き孟子曰膾炙哉公孫丑曰然則

曾晳羊棗を嗜むを以て曾子羊棗を食するに忍ざるなり

公孫丑問て曰く膾炙と膾と孰か美き孟子の曰く膾炙ハ同じ

膾炙ハ美き所也羊棗ハ獨き所也名を諱て姓を諱ざる所也名ハ獨さる所也

曾子何為膾炙を食て羊棗を食せざるや

膾炙所同也羊棗所獨也諱名不諱姓

公孫丑問曰膾炙與羊棗孰か美き孟子曰膾炙哉公孫丑曰然則

○曾晳嗜羊棗而曾子不忍食羊棗

曾晳曾子の父曾晳羊棗を嗜むを以て曾子羊棗を食するに忍ざるなり

公孫丑問て曰く膾炙と膾と孰か美き孟子の曰く膾炙ハ同じ

膾炙ハ美き所也羊棗ハ獨き所也名を諱て姓を諱ざる所也名ハ獨さる所也

曾子何為膾炙を食て羊棗を食せざるや

膾炙所同也羊棗所獨也諱名不諱姓

公孫丑問曰膾炙與羊棗孰か美き孟子曰膾炙哉公孫丑曰然則

曾晳羊棗を嗜むを以て曾子羊棗を食するに忍ざるなり

公孫丑問て曰く膾炙と膾と孰か美き孟子の曰く膾炙ハ同じ

膾炙ハ美き所也羊棗ハ獨き所也名を諱て姓を諱ざる所也名ハ獨さる所也

曾子何為膾炙を食て羊棗を食せざるや

膾炙所同也羊棗所獨也諱名不諱姓

公孫丑問曰膾炙與羊棗孰か美き孟子曰膾炙哉公孫丑曰然則

○曾晳嗜羊棗而曾子不忍食羊棗

曾晳曾子の父曾晳羊棗を嗜むを以て曾子羊棗を食するに忍ざるなり

公孫丑問て曰く膾炙と膾と孰か美き孟子の曰く膾炙ハ同じ

膾炙ハ美き所也羊棗ハ獨き所也名を諱て姓を諱ざる所也名ハ獨さる所也

曾子何為膾炙を食て羊棗を食せざるや

膾炙所同也羊棗所獨也諱名不諱姓

公孫丑問曰膾炙與羊棗孰か美き孟子曰膾炙哉公孫丑曰然則

萬章問て曰く孔子陳に在りて曰はく盍ぞ歸らざる吾黨之士狂簡なり進て取其初を思ふて其行を忘不孔子陳に在りて魯之狂士を思ふ

萬章問て曰く孔子陳に在りて曰はく盍ぞ歸らざる吾黨之士狂簡なり進て取其初を思ふて其行を忘不孔子陳に在りて魯之狂士を思ふ

孟子の曰く孔子中道を得て與せざれば必ず狂獧乎狂者ハ進て取ら獧者ハ為不所有孔子豈中道を欲せざらんや其次を思ひ敢て問ふ何如なる斯

孟子の曰く孔子中道を得て與せざれば必ず狂獧乎狂者ハ進て取ら獧者ハ為不所有孔子豈中道を欲せざらんや其次を思ひ敢て問ふ何如なる斯

萬章問て曰く孔子陳に在りて曰はく盍ぞ歸らざる吾黨之士狂簡なり進て取其初を思ふて其行を忘不孔子陳に在りて魯之狂士を思ふ

萬章問て曰く孔子陳に在りて曰はく盍ぞ歸らざる吾黨之士狂簡なり進て取其初を思ふて其行を忘不孔子陳に在りて魯之狂士を思ふ

孟子の曰く孔子中道を得て與せざれば必ず狂獧乎狂者ハ進て取ら獧者ハ為不所有孔子豈中道を欲せざらんや其次を思ひ敢て問ふ何如なる斯

孟子の曰く孔子中道を得て與せざれば必ず狂獧乎狂者ハ進て取ら獧者ハ為不所有孔子豈中道を欲せざらんや其次を思ひ敢て問ふ何如なる斯

○萬章問曰孔子在陳曰盍歸乎來吾黨之士狂簡進取不忘其初孔子在陳何思魯之狂士

○萬章問曰孔子在陳曰盍歸乎來吾黨之士狂簡進取不忘其初孔子在陳何思魯之狂士

萬章の問なり聖人陳に在りて狂簡の風儀変ざるを思ふ

萬章の問なり聖人陳に在りて狂簡の風儀変ざるを思ふ

その初一念を忘ざるなり

その初一念を忘ざるなり

何ぞ狂簡の徒輩のことを思ふてか中庸の賢者をこうにやと

何ぞ狂簡の徒輩のことを思ふてか中庸の賢者をこうにやと

孟子曰孔子不得中道而與之必也狂獧乎狂者進取獧者有所不為也

孟子曰孔子不得中道而與之必也狂獧乎狂者進取獧者有所不為也

孔子豈不欲中道哉不可必得故思其次也

孔子豈不欲中道哉不可必得故思其次也

御答なり聖人元より中庸の道にこうなる賢者を欲ふといへども又中道の人なくして與ふべからざるにあらず

御答なり聖人元より中庸の道にこうなる賢者を欲ふといへども又中道の人なくして與ふべからざるにあらず

事を得ざる時は必ず狷の人を取て教ゆべしとなり他は前に見えたり

斯可謂狂矣　萬章の問なり　曰如琴張曾晳牧皮者孔子之所謂狂者又不可得而之也古之人古之人夷考其行而不掩焉者也　牧皮は詳ならず　何以謂之狂也　萬章の問なり　曰其志嘐嘐然曰古之人古之人夷考其行而不掩焉者也　御は各狂者は志ざし嘐嘐然として常に曰ふ古の人古の人と夷ら其行ひを考へ而も掩ふ所なきを狂者といふ　狂者又不可得而之也狷者有所不爲也　狂者は志ざし高くして進んで猥者は堅く道を守る其志ひ潔くして雖ども潔うせめ行なひ不屑て介と執守なり

狂者の次なり　孔子曰過我門而不入我室我不憾焉者其惟鄉原乎鄉原德之賊也　過ぎて我門に入ざるも我室を窺ひたとへ内へ入ざるも心に憾なきは鄉原なる人は好んで聖人の道を述ざるを以て我室をうかゞ

萬章曰一鄉皆原人稱焉往而不爲原人孔子以爲德之賊何哉

曰非之無舉也刺之無刺也同乎流俗合乎汗世居之似忠信行之似廉潔衆皆悅之自以爲是而不可與入堯舜之道故曰德之賊也

孟子曰狂者吾何以之哉嘐嘐志一言之顧行之顧古人古人行何以之哉嘐嘐志一言之顧行之顧古人古人

と又獧者を識て曰く何為たるや其志ざす所古人を慕のみて言の如くなり其行ひ守て不為凉凉志ざす所古人を慕のみて言の如くなり其行ひ守て不為凉凉

曰く當世の生ぜて八適ざる八戻をうなう衆人たようくと適べ一古へと唱て今と適べ一古へと唱て今と

庵然一の人たまくごひ世にたようくと適べ一古へと唱て今と庵然一の人たまくごひ世にたようくと適べ一古へと唱て今と

めぐざるを鄉原といふ萬章曰一鄉皆稱

なうバ狂々なうと同く稱美せらるべ一萬章曰一鄉皆稱

而られた聖人の取うバざる所なり萬章曰一鄉皆稱

と謹なう意なう萬章曰一鄉皆稱

問て曰く一鄉里の者原人と稱誉

原人焉無所往而不爲原人孔子以爲

德之賊何哉

曰非之無舉也刺之無刺也同乎流俗合乎汗世

居之似忠信行之似廉潔衆皆悅之自以爲是而不可與入堯舜之道故曰德之賊也

御巻それ項非を舉て刺べきことなく當世の流俗と同く廉潔くへて衆くの人と悅ぶるゆへ正く堯舜先王の道うと称美せらるゝ人を見まうてそのの故う德を盜賊なうといふ

孔子曰惡似而非者惡莠恐其亂苗也惡佞恐其亂義也惡利口恐其亂信也惡鄭聲恐其亂樂也惡紫恐其亂朱也惡鄉原恐其亂德也

聖人必ずしも惡人を棄たまふにあらず只その似て非なるものを惡ませたまふなり莠と苗とよく似たるものなり佞と義とよく似たるものなり利口と信とよく似たるものなり鄭聲と樂とよく似たるものなり紫と朱とよく似たるものなり鄉原と德とよく似たるものなり

君子反經而已矣經正則庶民興斯無邪慝矣

君子ハ経ニ反ル已ノミ経正ケレバ庶民興ツテ斯邪慝無

（一）孟子曰由堯舜至於湯五百有餘歲若禹皐陶則見而知之若湯則聞而知之由湯至於文王五百有餘歲若伊尹萊朱則見而知之若文王則聞而知之由文王至於孔子五百有餘歲若太公望散宜生則見而知之若孔子則聞而知之

孟子の曰く堯舜より湯に至り五百有餘歲禹皐陶の若きハ則ち見て之を知湯の若きハ則ち聞て之を知湯由文王に至りて五百有餘歲伊尹萊朱の若きハ則ち見て之を知文王由孔子に至りて五百有餘歲太公望散宜生の若きハ則ち聞て之を知孔子の若きハ則ち見て之を知

由孔子而來至於今百有餘歲若此其未遠也近聖人之居若此其甚也然而無有乎爾則亦無有乎爾

孔子由來今に至りて百有餘歲聖人之世を去ること此の若く其未遠からず聖人之居ること此の若く其甚だ近し然り而して爾ること有ること無ければ則ち亦爾ること有ること無し

後の世の聖人を待つところを止めよ

孟子卷之四畢